

高等教育開発をリードする人材が  
集い、学び、成長する場。

全国の高等教育機関の教育の質向上のための  
「教職員能力開発拠点」活動報告書

令和7年度

[令和8年3月]

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

## はじめに

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名：教職員能力開発拠点）として認定され、第1期（平成22～26年度）、第2期（平成27～令和元年度）を通じて、高等教育の質を高める専門家の育成を目的としたFD/SD/IRプログラムの開発・提供に取り組みました。第3期（令和2～6年度）においては、個々の教職員に対する支援に留まらず、全国の大学のカリキュラム、制度、リーダーシップ等の改善を支援する「組織開発支援」を重視した取組を展開しました。これらの成果が評価され、令和6年7月には4度目の認定を受け、令和7年4月から第4期（令和7～11年度）がスタートしています。第4期では、「愛媛大学モデル」の研修による専門人材の養成とフォローアップ、ニーズに応じた研修の開発と実施、各種組織との協働を通じて、行動変容と組織開発につながる教職員能力開発の実現を目標としています。

本年度（令和7年度）は、新たな専門人材養成プログラムとして、アカデミック・アドバイザー養成講座を茨城大学と愛媛大学それぞれで開催し、計56人の方にご参加いただきました。受講者は、アカデミック・アドバイジングの意義や多様な学生に関する理解の方法等を学ぶとともに、自身が所属する大学の課題分析やアクションプランの策定に取り組みました。あわせて、インスティテューショナル・リサーチャー養成講座を愛媛大学で、ファカルティ・ディベロッパー養成講座を近畿大学で開催しました。

また、拠点事業の各専門人材養成研修の修了者を対象に、知識・経験に関する審査を行い、専門人材として認定し称号を付与する教職員能力開発拠点専門人材認定事業を開始しました。本年度は、4つの専門領域（スタッフ・ディベロップメント、カリキュラム、インスティテューショナル・リサーチ、アカデミック・アドバイジング）で計14人から申請があり、個別メンタリングや審査を通じたフォローアップを行いました。その結果、14人全員を専門人材として認定しました。

さらに、全国の教務事務や教職事務の初任者、大学教育国際化に関心のある教職員の基礎知識取得を支援する研修プログラムを開催したほか、プレFDとして教授法入門を開講し、指導補助者の養成、教育体制の充実を図りました。加えて、大学職員の仕事に関心を持つ大学生と大学院学生を対象とした研修「プレSD 大学職員のリアル～大学で働くという選択肢～」を初めて開催し、大学職員の多様な業務内容や役割を伝えるとともに、大学職員に求められる基本的能力の養成に取り組みました。

今後も新しい分野の研修や教材の開発を続けるとともに、時流に沿った事業を行うよう努力していきます。引き続き本拠点が、全国の大学のカリキュラムなどの組織的な改善や教職員の行動変容に貢献できますようお力添えを賜りたく、よろしくごお願い申し上げます。

令和8年3月

国立大学法人愛媛大学長 仁科弘重

# 令和7年度「教職員能力開発拠点」活動報告書

## 目次

1	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について	
	(1) 組織概要	1
	(2) スタッフ紹介	4
2	教職員能力開発拠点について	
	(1) 教職員能力開発拠点の認定について	5
	(2) 教職員能力開発拠点の実施体制について	5
	(3) 教職員能力開発拠点の事業計画について	6
3	令和7年度の事業報告	
	(1) 令和7年度事業の総括	8
	(2) 令和7年度活動実績	
	Ⅰ. 愛媛大学モデルによる専門人材の養成	10
	Ⅱ. 養成した専門人材のフォローアップ	25
	Ⅲ. ニーズに応じた研修の開発と実施	26
	Ⅳ. 各種組織との協働	53
	参考資料	
	① 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室規程	58
	② 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規	60
	③ 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議内規	61
	④ 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室プロジェクトフェローの受入要項	63
	⑤ 共同利用運営委員会委員名簿及び共同利用推進会議委員名簿	64

# 1. 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について

## (1) 組織概要

### ミッション

教育・学生支援機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査・研究等を行うとともに、その成果をもとに教育施策を企画し、本学の教育改革を推進すること。

### 教育企画室の業務（規程第3条及び第9条） ※P. 58～59参照

1. 全学的な教育企画、教育改革等に関すること。
2. 全学的な教育課題に係る調査、研究等に関すること。
3. 教職員の能力開発の実施に関すること。
4. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事業に関すること。
5. 教職員能力開発拠点事業に関すること。
6. その他教育開発に係る調査、研究等に関すること。

※上記の成果を、他の高等教育機関等の利用に供することができる。

### 沿革

- 1993年度：旧教養部を改組して、大学教育研究実践センター（学内施設）が設置。
- 2001年度：大学教育総合センター（学内施設）となる。
- 2002年度：大学教育総合センター（省令施設）となる。
- 2004年度：教育・学生支援機構の設置に伴い、大学教育総合センターが廃止され、機構のセンターの1つとして、教育開発センター（共通教育部・教育開発部）が設置。
- 2005年度：スタディ・ヘルプ・デスク（SHD）を設置。
- 2006年度：愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室を設置。  
教育コーディネーター制度の導入。  
愛媛大学教育改革促進事業（愛大教育改革GP）創設。
- 2008年度：「戦略的大学連携支援事業」に、「『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク』による大学の教育力向上（代表校：愛媛大学）」が採択。  
※四国地区の国立大学と近隣公私立大学等の連携により「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」を形成。
- 2010年度：「教職員能力開発拠点」（認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日）として、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点として認定。  
「FDカレンダー」の発行開始（2017年度まで継続）。

- 2012年度：「愛媛大学学生として期待される能力～愛大学生コンピテンシー～」制定。
- 2014年度：愛媛大学独自のテニユア・トラック制度（現：テニユア教員育成制度）の導入。
- 2015年度：「教職員能力開発拠点」に再認定（認定の有効期間：平成27年4月1日～令和2年3月31日）。データから考える愛大授業改善発行開始。
- 2016年度：大学教育イノベーション日本（HEIJ）設立（同時に愛媛大学加盟、2019年から教育企画室教員が代表を務める）。
- 2017年度：教育企画室教員がシリーズ編者として、2021年までに「看護教育実践シリーズ」全5冊（医学書院）を刊行。
- 2018年度：「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」設立10周年。
- 2019年度：教育企画室教員がシリーズ編者として、2021年までに「大学SD講座」全4冊（玉川大学出版部）を刊行。
- 2020年度：「教職員能力開発拠点」に再々認定（認定の有効期間：令和2年4月1日～令和7年3月31日）。
- 2021年度：「大学教職員のための48冊」を刊行。
- 2022年度：教育企画室教員がシリーズ編者として、「シリーズ大学教育の質保証」全3冊（医学書院）を刊行開始。  
「愛大トランスファラブルスキル」の制定。
- 2023年度：「愛媛大学学生として期待される能力～愛大学生コンピテンシー～」改訂。  
「愛媛大学FD・SDチャンネル」Youtube/X（Twitter）開設。
- 2024年度：愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室プロジェクトフェロー/愛媛大学認定研修講師を設置。  
ぼっちゃんメーリングリストの運用開始。  
教育企画室教員が編者として、「大学SD講座5 大学教育の国際化」（玉川大学出版部）を刊行。  
「大学教職員のための56冊」を刊行。
- 2025年度：「教職員能力開発拠点」に4度目の認定（認定の有効期間：令和7年4月1日～令和12年3月31日）  
「教職員能力開発拠点専門人材の認定」を開始。  
教育企画室教員が編者として、「大学IR入門ーデータにもとづく意思決定のための完全ガイド」（ナカニシヤ出版）を刊行。  
本学の「テニユア教員育成教育能力開発プログラム」が、日本高等教育開発協会（J

AED)の「大学新任教員研修プログラム」認証を取得(認証期間:令和8年4月1日~令和13年3月31日)

## (2) スタッフ紹介

教育企画室には、実践経験と研究業績を兼ね備えた、高等教育開発を専門とするスタッフが配属されている。

### <スタッフ>

氏名	所属・職名	専門
中井 俊樹 - NAKAI Toshiki	学長特別補佐、教育・学生支援機構副機構長、教職員能力開発拠点代表者、教育企画室長 教授	高等教育論、人材育成論
清水 栄子 - SHIMIZU Eiko	教育企画室副室長、准教授	高等教育論、学習支援
林 知寿 - HAYASHI Tomohisa	教育企画室副室長、入試課副課長	
中山 晃 - NAKAYAMA Akira	教育企画室 教授	応用言語学、英語教育
カワモト・ジュリア・ミカ - KAWAMOTO Julia Mika	教育企画室 教授	応用言語学、教授言語、教員研修
上月 翔太 - KOZUKI Shota	教育企画室 講師	高等教育論、西洋古典文学、未来思考
真鍋 亮 - MANABE Ryo	教育企画室 特任助教	高等教育論、教育経済学
葛西 崇文 - KASAI Takafumi	教育企画室 特任助教	知覚心理学、SD

### <事務局>

氏名	所属・職名
石川 尚 - ISHIKAWA Takashi	教育学生支援部 教育企画課長

※教育学生支援部教育企画課教育企画チームにおいて事務局業務を実施

### <認定研修講師とプロジェクトフェロー>

上記スタッフに加え、高い専門性のもと研修講師を担う学内教職員を「認定研修講師」、教職員能力開発に係る研修の企画、実施等に参画する学外有識者を「プロジェクトフェロー」として任命し、より幅広い教職員能力開発を展開できる体制を整えている。

## 2. 教職員能力開発拠点について

### (1) 教職員能力開発拠点の認定について

教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していく取組を国が支援することを目的として創設された制度である。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、これまで行ってきた教職員能力開発のための研修講師の派遣や独自に開発したFD研修プログラムの提供及び「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」における教職協働など幅広い取組実績が評価され、平成22年3月23日に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点に認定された。本拠点のこれまでの実績と、他大学にも開かれ、かつ他大学からの参加者の成長・習熟を担保できる拠点として発展が期待できる点が高く評価されたことにより、平成26年7月、令和元年8月にそれぞれ5年間の認定が継続され、令和6年7月にも同じく5年間の認定が継続された。他大学や諸学協会等との連携により、これまで提供してきたプログラムの充実やFD/SD/IR/カリキュラム開発/学習支援等の専門家・実践的指導者の育成を図り、全国の高等教育機関の組織的な向上を目指していく。

◎拠点名：教職員能力開発拠点

◎認定施設の種類：大学の教職員の組織的な研修等の実施機関

◎認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日（5年間）

平成27年4月1日～令和2年3月31日（5年間）

令和2年4月1日～令和7年3月31日（5年間）

令和7年4月1日～令和12年3月31日（5年間）

◎代表者名：中井 俊樹

(愛媛大学学長特別補佐、教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長 教授)

### (2) 教職員能力開発拠点の実施体制について

教育企画室が所属する教育・学生支援機構は、愛媛大学の教育理念と目標に沿い、教育の充実及び学生の修学支援等の強化を図り、これらに伴う諸課題に対処し、迅速で効率的な意思決定を行うことを目的に設置された組織で、以下の業務を行っている。

(教育・学生支援機構の業務)

1. 学士課程及び大学院課程の教育の改善及び充実に関すること。
2. 共通教育の企画及び実施に関すること。
3. 学生の受入れ、修学支援、課外活動支援、就職支援等の企画及び実施に関すること。
4. その他、目的を達成するために必要な事項。

その中で、教育企画室は、教育・学生支援機構長（理事・副学長（教育担当）が兼任）の直属機関として、機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査、研究等を行うとともに、その成果を実際の教育活動に適用し、愛媛大学の教育改革を推進することを目的として設置

されている。また、教職員能力開発拠点の再認定を受け、これまで提供してきたプログラムの充実や重点事業の推進を図り、全国の高等教育機関等の利用に供している。

教職員能力開発拠点は、教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課と教職協働で教職員の能力開発や教育改革の取組を行っている。

また、教育企画室には、共同利用運営委員会及び共同利用推進会議を置いている。共同利用運営委員会は、教職員能力開発拠点の運営に関する重要な事項を審議しており、教育企画室員等の学内関係者のほか、学外の学識経験者4名もメンバーになっている（P.60、64参照）。令和7年度以降の認定継続を受け、令和7年3月に同委員会において、「第4期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」を策定した。

共同利用推進会議は、共同利用運営委員会が定める基本方針に基づき、共同利用の事業等を実施するために必要な事項を審議しており、教職員能力開発拠点運営スタッフである教育企画課長や人事課長がメンバーに入っている。（P.61、64参照）

さらに、教職員能力開発拠点は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、日本高等教育開発協会（JAED）、大学教育イノベーション日本（HEIJ）や大学評価コンソーシアムなどの高等教育関係学協会、他の教育関係共同利用拠点等と各種プログラムで連携し、事業を行っている。

### （3）教職員能力開発拠点の事業計画について

令和7年度以降の認定継続を受け、令和7年3月に「第4期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」が共同利用運営委員会において策定された。この基本方針に基づき、毎年、事業計画が立てられている。

#### 第4期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針

令和7年3月3日  
共同利用運営委員会決定

##### 1. 事業目的

本事業は、教職員能力開発に関する支援を幅広く展開し、全国の高等教育機関に寄与することを目的とする。本拠点では、これまで3期15年にわたる活動期間における経験や知見の蓄積から、事前学習から職場での実践までを見据えた研修「愛媛大学モデル」を開発した。第4期は、愛媛大学モデルによる専門人材の養成や、養成した専門人材のフォローアップ、ニーズに応じた研修の開発と実施などを通じて、行動変容と組織開発につながる教職員能力開発の実現を目指す。

行動変容：研修等の参加者が研修等で学んだことを自身の業務に反映させること。

組織開発：研修等の参加者の学習成果と行動変容を契機に、参加者の所属するカリキュラム、制度、組織体制などの改善につなげ、組織的な成果を高めること。

##### 2. 事業内容

教職員能力開発拠点（以下「拠点」という。）は、教職員能力開発に関する以下の事業を行う。

- ①愛媛大学モデルによる専門人材の養成
  - ✓ FD/SD/IR/カリキュラム開発/の専門人材の養成 等
- ②養成した専門人材のフォローアップ
  - ✓ 新規認定事業、専門人材への支援 等
- ③ニーズに応じた研修の開発と実施
  - ✓ プレFD、プレSD、講師派遣、オンデマンド動画教材 等
- ④各種組織との協働
  - ✓ 他拠点等と連携した研修の共同実施、講師派遣 等

### 3. 実施体制

- ✓ 外部有識者が過半数の共同利用運営委員会を置き、開かれた運営を行う。
- ✓ 幅広い課題に対応するため、教育企画室のほか、認定研修講師、プロジェクトフェローといった学内外の協力体制を充実させ、教育企画室（教員組織）等と教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課（事務組織）が連携・協働して事業を行う。

## 令和7年度教職員能力開発拠点事業計画

### ◇全体計画

教職員能力開発拠点（愛媛大学教育企画室）は、全国の教育関係共同利用拠点として、本拠点が開発した研修「愛媛大学モデル」による専門人材の養成、専門人材のフォローアップ、ニーズに応じた研修の開発と実施等、各組織の自立的な教育改善を支援するための以下の事業を行うほか、他拠点やコンソーシアム等との連携を強化し、大学間連携ネットワーク等への講師派遣・運営支援を積極的に行い、行動変容と組織開発につながる教職員能力開発の実現を目指す。当拠点第4期の5年間（令和7～11年度）において、7つの量的な成果指標（「組織開発支援を行う機関数300機関」、「認定する専門人材の人数30名」、「各種研修への参加者数10,000名」、「オンデマンド教材数100動画」、「満足度指標90%」、「行動変容指標80%」、「組織開発指標70%」）を設定し、取組の成果を評価する。

### ◇事業内容

#### I 愛媛大学モデルによる専門人材の養成

令和7年度は、「FDer養成講座」、「IRer養成講座」を開催する。また、新たな専門人材の養成講座として、学生の大学での学びを充実させるため、学生への学習支援を行う教職員を対象に「アカデミック・アドバイザー養成講座」を開催する。

#### II 養成した専門人材のフォローアップ

SDコーディネーターの認定事業を継続して実施しつつ、新たにFD、IR、カリキュラムに対する認定事業の制度設計を行う。また、養成した専門人材に対して追跡調査を行い、行動変容や組織開発の実践状況の把握と支援を実施する。

#### III ニーズに応じた研修の開発と実施

令和7年度は、未経験者を含む教務・教職事務の経験の浅い職員を対象に基礎知識を学習する教務・教職関係の講座を開催する。また、本拠点が開発した愛媛大学モデルを活用しつつ、新たな研修を企画、実施し、高等教育機関の組織開発支援を行う。具体的な組織開発支援のあり方として、①研修講師派遣、②オンデマンドFD/SDコンテンツの発信、③FD/SDに対する個別相談対応、といったものが挙げられる。

①については、1機関あたり複数回の研修実施または1回の研修とその前後におけるコンサルティングを含むものに力点を置き、他大学に対する継続的な組織開発支援を図る。②については、YouTubeチャンネル等でオンデマンドのFD/SD教材を公開し、他大学がFD/SD研修や教職員の自学自習教材として活用することにより、他大学の自立的な組織開発を支援することを意図している。③については、他大学のニーズに対応する形で個別相談や訪問対応等を行う。その際、相談や訪問対応から研修やコンサルティングのニーズを掘り起こす等により、今後の発展的な組織開発支援の可能性も検討していく。

また、プロジェクトフェローや認定研修講師と協働し、高等教育に関する幅広い課題に対応するため新たな教職員能力開発研修の企画、実施を行う。令和6年度に運用を開始したぼっちゃんメーリングリストを積極的に活用し、研修やFD/SD教材の広報を行う。

#### IV 各種組織との協働

他拠点やコンソーシアム等に対し、研修の共催や講師派遣、委員としての参画を中心とした連携を行う。また、「教職事務担当者講習会（初級編）」と「教務事務担当者講座（初級編）」、「大学教育国際化コーディネーター養成講座」は大学教務実践研究会と連携して実施する。さらに、教職員能力開発拠点所属教員が代表を務めている日本高等教育開発協会（JAED）等との活動を通じて、大学教育の開発を進める組織との連携をさらに推進していく。

### 3 令和7年度の事業報告

#### (1) 令和7年度事業の総括

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、令和6年7月に教育関係共同利用拠点として4度目の認定を受け、令和7年4月に第4期（令和7～11年度）の事業を開始した。第4期では、愛媛大学モデルによる専門人材の養成とフォローアップ、ニーズに応じた研修の開発と実施、各種組織との協働を通じて、行動変容と組織開発につながる教職員能力開発の実現を目標として、各種取組を実施した。以下、今年度の取組状況を総括する。

取組	I 愛媛大学モデルによる 専門人材の養成	II 養成した専門人材の フォローアップ	III ニーズに応じた研修の 開発と実施	IV 各種組織との協働
	<ul style="list-style-type: none"><li>学習支援や教育の質保証などの新規の専門人材養成プログラムを開発し、実施する</li><li>第3期までの実践を振り返り改善し、カリキュラム開発、FDの推進、SDの推進、IRの推進、生成AIの活用、教育の国際化における専門人材養成プログラムを実施する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>FDの推進、カリキュラム開発などの専門人材を対象に新規の認定事業を行う</li><li>SDコーディネーターの認定事業（平成24年から42名の認定）を継続的に実施する</li><li>養成した専門人材を対象とした追跡調査を行い、実践状況の把握、振り返りの促進、相談による支援を実施する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>第3期までの各種研修に加えて、ブレFDやブレSDなどの新規の研修を広く公開する</li><li>各大学のニーズに合わせて講師を派遣する</li><li>オンデマンド動画の公開やメーリングリストによって情報発信を充実させる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>多様な領域のプログラムを実施するため、他拠点等と連携した研修を共同実施する</li><li>四国地区大学教職員能力開発ネットワーク、日本高等教育開発協会、大学教育イノベーション日本等の組織に対し、講師派遣や情報提供を通じて支援を行う</li></ul>

#### ① 愛媛大学モデルによる専門人材の養成

今年度は、新たな専門人材養成プログラムとして、アカデミック・アドバイザー、または学習支援や学生の履修相談を行う教職員を対象に、アカデミック・アドバイザー養成講座を茨城大学および愛媛大学で開催し、全国からあわせて56名の参加があった。アカデミック・アドバイジングの意義や学生理解の方法等を学ぶとともに、所属大学における課題分析やアクションプランの策定に取り組んだ。「アカデミック・アドバイジングの必要性を理論的に理解できた」「参加者同士の意見交換を通じて新たな視点や発見を得ることができた」などの声が寄せられ、本研修が所属大学における取組の推進に資する知識の獲得につながったことがうかがえた。

また、インスティテューショナル・リサーチャー養成講座を愛媛大学で、ファカルティ・ディベロッパー養成講座を近畿大学で開催し、合計27名の参加があった。

#### ② 養成した人材のフォローアップ

今年度は、教職員能力開発拠点スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（SDC）を1名認定した。

また、これまでの認定事業の領域を拡大し、ファカルティ・ディベロップメント、スタッフ・ディベロップメント、カリキュラム、インスティテューショナル・リサーチ、アカデミック・アドバイジングの各領域において、本拠点事業の研修修了者を対象に、知識・経験に関する審査を行い、専門人材として認定し称号を付与する教職員能力開発拠点専門人材認定事業を開始した。本年度は4つの領域で、合計14名から申請があり、個別メンタリングや審査を通じたフォローアップを行った。

なお、新たな枠組みである教職員能力開発拠点専門人材の認定開始に伴い、SDCの新規認定は令和7年8月をもって終了した。

### ③ ニーズに応じた研修の開発と実施

教職員個々の能力開発から組織レベルの教育力向上まで、幅広く高等教育機関で活用できる知識やスキルを習得できるよう、全19プログラムを提供し、学内外から392名（令和8年3月23日現在）の参加があり、事後に行ったアンケートにおいても高い満足度を得ることができた。また、FD・SDに関するオンデマンド教材を開発し、YouTubeチャンネル（愛媛大学FD・SDチャンネル）に公開しており、チャンネル登録者数は744名（令和8年3月23日現在）となり、コンテンツ数は110本に達した。本コンテンツについて、FD・SDプログラムでの活用を希望する問い合わせも寄せられており、組織的な活用事例も生まれている。

講師派遣に関しては、多種多様な研修のニーズに対応できるメニューと体制を整え、今年度は42機関に対し、51件実施した。対面やオンラインだけでなく、それらを組み合わせたハイブリット方式や当日の録画データを後日視聴して受講するオンデマンド方式等、受講者のニーズにあわせた方法で研修を実施した機関も多くみられた。それぞれの利点を活かしたプログラム構成を実施機関と相談の上、組織で必要とされる人材育成の取組等に、本拠点のノウハウを提供した。

さらに、学内外のIRに関する取組を掲載した「IR News Vol. 13」を作成し、愛媛大学の取組や研究成果を学内外に発信した。また、教育・学生支援機構が毎年刊行している「大学教育実践ジャーナル」については、高等教育の発展に資する研究論文や事例報告を掲載した第25号を発行した。

ぼっちゃんメールリストでは、教職員能力開発（FD・SD）に関する情報を配信しており、登録会員数は851名（令和8年3月23日現在）となった。会員は、情報を受信するだけでなく、自ら投稿することも可能であり、今年度は417件（令和8年3月23日現在）の配信を行った。

### ④ 各種組織との協働

アカデミック・アドバイザー養成講座では、日本アカデミック・アドバイジング協会と共催し（第1回は茨城大学教学イノベーション機構とも共催）、協働して取り組んだ。また、インスティテューショナル・リサーチャー養成講座およびファカルティ・ディベロッパー養成講座では、近畿大学IR・教育支援センターと共催し、協働して実施した。

さらに、大学教育国際化基礎知識&マネジメントセミナーでは、大学コンソーシアム八王子と共催し、協働して実施した。その他、全国規模のネットワーク組織等に講師派遣を行うなど、大学教育の開発を進める組織等との連携を深めた。

## (2) 令和7年度活動実績

### I. 愛媛大学モデルによる専門人材の養成

各大学等において自立的にFD、SD及びIRを推進できる専門家・実践的指導者の養成は、特に高い波及効果が期待できるため、高等教育の質向上に大きく資することのできるニーズの高い事業の一つとなっている。本拠点では、第1～3期からFD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・実践的指導者の養成に重点的に取り組み、これに加えて第4期からは新たに学習支援推進の専門家養成についても取り組んでいる。

今年度は、FD/IR分野の2講座に加えて、学習支援分野の新規2講座を含む全4講座を開催した。各講座では、知識や実践的なスキルを習得にとどまらず、受講者が自大学の課題に即したアクションプランを個別に構築しグループで共有することにより、他大学の状況も参考にしながら具体的な改善策を持ち帰ることができるプログラムとしている。さらに、受講者の行動変容や所属組織における改善への取組状況について、事後アンケートやフォローアップ等を通じた質的分析を行っている。

#### a. IR推進の専門家の養成・支援

IR（インスティテューショナル・リサーチ）は、計画立案、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する活動である。近年、各大学では大学のガバナンス機能の強化が求められており、本拠点ではIRを推進する専門家（インスティテューショナル・リサーチャー）を養成するための講座を開講している。

（インスティテューショナル・リサーチャー：IR推進の専門家）とは

教学に関わる様々なデータ（各種調査や教務データ等）に基づき、組織的に教育改革・改善を行うことができる専門家

※本拠点におけるIRとは、特に教育・学生支援に関するIR「教学IR」を指します。

#### ■ 10月25日（土）～26日（日）開催 インスティテューショナル・リサーチャー養成講座

近畿大学IR・教育支援センターとの共催で愛媛大学城北キャンパスを会場に、2日間に渡り対面開催した。IRに関心を持つ教職員を対象に募集を行い、全国から10名（教員2名、職員8名）が参加した。

参加者は、インスティテューショナル・リサーチャーに必要とされる実践的な知識や質的データの分析方法等の具体的なスキルを学んだ。その後、学んだ内容を踏まえ、所属大学におけるIRの課題解決案の作成に取り組んだ。作成にあたっては、講師との個別面談も行うとともに、作成後にはグループ内で共有や意見交換を行い、理解を深めた。



#### 【事後アンケート結果】

①研修は全体的に満足できるものだった。 100%（そう思う+どちらかと言えばそう思う）

②知識やスキルを身につけることができた。 100%（そう思う+どちらかと言えばそう思う）

### 【参加者からの声】

- ・ 『大学 I R 入門』の内容について講義やワークを通して理解を補強できたことはもちろん、他大学の事例や困りごとの共有をすることで、自大学と他大学が共通で抱えている課題や自大学の立ち位置を客観的に確認することができました。また、I R 担当者の横のつながりができたこともとても良かったです。
- ・ 適宜、グループワークがあり、あっという間に充実した2日間でした。
- ・ 同じ悩みや課題を抱えた他大学の職員や講師の方々との繋がりができた点が1番よかった点です。また、分析やアンケート実施などの基礎を学んだり、応用としてデータの活用や自分の組織での課題解決を考える機会もあり、I R について体系的に理解する機会となりました。
- ・ 情報収集、集計、分析、応用的な使い方など、基本的にはいずれの内容も大変有意義でした。

### b. F D の実践的指導者の養成・支援

2008年に大学設置基準が改正され、大学におけるFD（ファカルティ・ディベロップメント）が義務化されて以来、各大学では授業改善に向けた研修や研究に取り組まなければならなくなった。本拠点では、FDを企画、実施、運営することができる人材をファカルティ・ディベロッパーと呼び、ファカルティ・ディベロッパーに求められる基礎的な知識・技能・態度を育成することを目的として、「ファカルティ・ディベロッパー養成講座」を、平成23年度以降、隔年で開催している。

（ファカルティ・ディベロッパー：FD推進の専門家）とは

組織のFD責任者として各種研修プログラムの企画・実施や各教員への教育技術の支援を行う専門家のことを指し、以下3点を担うFD推進の専門家

- （1）個々の教員や授業科目における教育技術の改善（マイクロ・レベル）
- （2）学部や学科・コース等におけるカリキュラムの改善（ミドル・レベル）
- （3）個々の大学やコンソーシアムでFDを推進するための組織整備（マクロ・レベル）

### ■ 2月20日（金）～21日（土）開催 ファカルティ・ディベロッパー養成講座

近畿大学 I R ・教育支援センターと共催し、近畿大学東大阪キャンパスを会場に、2日間に渡り対面開催した。FDに関心のある大学教職員を対象に募集を行い、全国から17名（教員7名、職員10名）が参加した。

参加者は、FDの意義や方法、FDを通じたカリキュラム改革などの組織開発の進め方等を学んだ。その後、学んだ内容を踏まえ、所属大学におけるFDの課題解決案の作成に取り組んだ。作成にあたっては、講師との個別面談も行うとともに、作成後にはグループ内で共有や意見交換を行い、理解を深めた。



### 【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった。 100%（そう思う+どちらかと言えばそう思う）

②知識やスキルを身につけることができた。100%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）

#### 【参加者からの声】

- ・ 講義、ワーク、2日目にメンバーが入れ替わるなどの工夫があって、研修中に常に集中して取り組むことができました。最後に証書もいただけて嬉しかったです。大変勉強になりました。
- ・ 他大学の方とワークショップ形式で研修を受け、様々な情報を得ることにより、自大学でできていないことに対しての危機感を感じたり、何から取り組むべきか、などを考えるととても大きなきっかけとなりました。ただ受講しただけに終わらないように自大学でできることから進めていきたいです。
- ・ 他大学のFDに関する取り組みを知ることができた点、自大学のFDに係る課題について改善するためのワークがあり、その内容について個別に相談やアドバイスをいただいた点です。

### c. 学習支援推進の専門家（アカデミック・アドバイザー）の養成・支援

アカデミック・アドバイジングとは、学生自身が将来の目的・目標を設定し、その達成に向けて主体的に学びを進めていけるよう、担当者が途中段階のアセスメントを行いながら、学生個人のニーズに応じた支援プロセスである。近年、日本の大学では学生の多様化が進み、学習歴や生活背景、抱える課題も多様になっている。本拠点では、第4期からの新たな専門人材養成プログラムとして、こうした学生に対して支援を担う専門家（アカデミック・アドバイザー）を養成することを目的に、「アカデミック・アドバイザー養成講座」を茨城大学および愛媛大学で開催し、全国からあわせて56名の参加があった。

#### アカデミック・アドバイザーとは

学生の履修に関する支援や学修上の困難、進路に関する相談などについて学生固有のニーズや状況を総合的に捉え、学生の意思決定と自律的な成長を支える専門家

#### ■① 9月12日（金）～13日（土）開催 アカデミック・アドバイザー養成講座

茨城大学教学イノベーション機構および日本アカデミック・アドバイジング協会との共催し、茨城大学水戸キャンパスを会場に、2日間に渡り対面開催した。アカデミック・アドバイザー、または学習支援や学生の履修相談を担当する実務経験1年以上の大学教職員を対象に募集を行い、33名（教員10名、職員23名）が参加した。

1日目は、アカデミック・アドバイジングの意義や手法、学生支援に関する実践的な知識を学んだ。講義に加えて、個人ワークやグループワークを通じ、各大学での支援体制の在り方や実践方法について検討を深めた。その後、学んだ内容を踏まえ、所属大学におけるアカデミック・アドバイジングの課題解決案の作成に取り組んだ。作成にあたっては、講師との個別面談も行うとともに、作成後にはグループ内で共有や意見交換を行い、理解を深めた。



### 【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった。 100% (そう思う+どちらかと言えばそう思う)
- ②知識やスキルを身につけることができた。 100% (そう思う+どちらかと言えばそう思う)

### 【参加者からの声】

- ・自身が検討しているアクションプランに関して、講師や他の受講生からのフィードバックをいただける機会があり、今後、学内で取り組んでいくにあたり大変参考になりました。また、事前学習により、自身が考えている取組の現状や課題等を整理でき、良い機会となりました。
- ・非常に分かりやすく、初参加でも負担はありませんでした。
- ・各講座において、必ずグループで話し合う時間が設定されていたため、他大学の状況を把握するとともに、本学の事例がどのように受け止められるのかを知ることができました。1日目と2日目でグループを変えていただいたことにより、より多くの大学の皆さんと知見を共有できたと思います。
- ・AAの概念から具体的な手法、組織構築など理解が進みました。事前や研修内課題を通じて、自大学の特徴や環境を振り返り、学んだ知識を活かして、今何が出来るか具体的に検討できたことも非常に良かったです。他大学の皆さまとのGWを通じて、学び合いが出来たこと、人脈が広がったことも財産となりました。更に、AP作成では講師に個別相談が出来、非常に丁寧で具体的なアドバイスを頂きました。研修期間だけで終わらず、職場に持ち帰っても実りが続く内容で、受講させて頂いて本当に良かったです。
- ・事前課題とアクションプランを通して、自らの業務や関心に引きつけて講義が理解できた。GDが多かったのも刺激になりました。何より、アクションプランの作成を講師から個別指導していただける機会は貴重だったのでかなりのモチベーション向上になりました。

### ■② 1月30日(金)～31日(土)開催 アカデミック・アドバイザー養成講座

日本アカデミック・アドバイジング協会および愛媛大学教育学生支援部と共催し、愛媛大学城北キャンパスを会場に、2日間に渡り対面開催した。アカデミック・アドバイザー、または学習支援や学生の履修相談を担当する実務経験1年以上の大学教職員を対象に募集を行い、23名(教員9名、職員14名)が参加した。



### 【事後アンケート結果】

- ①研修内容は満足できるものだった。 100% (そう思う+どちらかと言えばそう思う)
- ②知識やスキルを身につけることができた。 100% (そう思う+どちらかと言えばそう思う)

### 【参加者からの声】

- ・アカデミック・アドバイジングについて、体系的に学ぶことができたことです。また、他大学の状況や具体例、方法などをご共有いただけたことが非常に貴重な機会となりました。
- ・同じような悩みや問題意識を持っている人がたくさん集まっていたので、自分が普段問題と感じていることへのアプローチの仕方について客観的に捉え直す(考え直す)ことができた点が

良かったです。また、研修を申し込んではみたものの、アカデミック・アドバイジングは学部の専任の教員でなければやっても意味がないのでは、と後ろ向きな気持ちでいたのですが、個人課題などを通じて自分にもできることがあると分かり、元気をいただきました。ありがとうございました。

- アカデミック・アドバイジングを体系的に学ぶことができ、さらに具体的な事例も大変参考になった。行動に繋げるところまでがプログラムになっているところも良かった。

# アカデミック・アドバイザー 養成講座

近年、日本の大学では、学習歴や生活背景、入試形態などにおいて学生の多様化が進んでおり、学生の課題もさまざまです。たとえば「なるべく楽しく卒業したい」と考えるいわゆる「楽単」志向の学生、学習習慣が定着していない学生、専門的な学習についていくのが難しい学生、適切なレポートが書けない学生、大学に通うことに困難をおぼえる学生、中途退学のリスクを抱える学生など多様な課題への対応が求められています。

こうした学生に対して支援を行うのが、アカデミック・アドバイザーです。アカデミック・アドバイザーは、履修支援にとどまらず、学習上の困難、進路や将来目標に関する相談など、幅広いニーズに対応する教職員であり、学生が自律的な学習者として成長できるよう導く役割を担っています。

本講座では、アドバイザーとして必要な知識や理論、支援の方法を体系的に学ぶとともに、参加者自身が直面している支援上の課題を整理し、各大学の実情に即したアクションプランの作成に取り組みます。

**日程：令和7年9月12日(金)～13日(土)**

**会場：茨城大学 水戸キャンパス** (茨城県水戸市文京2丁目1-1)

**参加費：5,000円**

お申し込み

先着30名

令和7年7月2日(水)～8月22日(金) 正午

- ・定員人数に到達次第、募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。受付完了後、確認メールを送信します。なお、いただいた情報は、本講座以外に使用することはありません。
- ・参加費の支払い方法について  
研修終了後、申し込み時にフォームへ記載いただいた「振込用紙送付先」へ振込用紙をお送りします。届きましたら、期限までにお支払いください。なお、お申し込み後にキャンセルされた場合も参加費は請求させていただきます。
- ・研修の効果を確認するため、事後アンケートにご協力をお願いいたします。

お申し込みはWebから <https://web.opar.ehime-u.ac.jp>



## 実施目的

アカデミック・アドバイザーの担当者として、アドバイザーの意義や方法、学生支援に関する実践的な知識とともに、所属大学における支援の改善に向けた手法を修得することを目指します。

## 到達目標

1. アカデミック・アドバイザーの意義と基本的な方法について説明できる
2. アカデミック・アドバイザーとしての学生対応における効果的な方法と留意点を説明できる
3. アカデミック・アドバイザーを通じた組織的な連携や教育改善の視点について説明できる
4. 自大学におけるアドバイザー体制と支援の課題を分析し、具体的なアクションプランを作成できる
5. 支援における多様な考え方や実践事例を尊重し、共に学び合う姿勢を示すことができる

## 参加対象者

アカデミック・アドバイザー、または学習支援や学生の履修相談を担当している教職員で、実務経験が1年以上の方

※アドバイザーという職名に限らず、学習支援や履修指導に関わっている方も対象としています。

※2日間全プログラムの参加が可能な方に限ります。

※多くの機関の方々にご参加いただくため、同一機関からのお申し込みが多数の場合は、全体のお申し込み状況により受講を制限させていただくことがあります。

※民間企業等に勤務されている方の参加はお断りしております。

【主催】教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）

15

【共催】茨城大学教学イノベーション機構、日本アカデミック・アドバイザー協会

## 講師

中井 俊樹	(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)
清水 栄子	(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)
上月 翔太	(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)
真鍋 亮	(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)
君島 菜菜	(大正大学総合学修支援部)
福 博充	(創価大学文学部)
大津 正知	(茨城大学教学イノベーション機構)
宮林 常崇	(東京都立大学教務課(兼)開設準備室)
小野 勝士	(龍谷大学社会学部教務課)
根本 剛	(茨城大学学務部学務課(兼)教学マネジメント・IR室)



## スケジュール

9 月 12 日 【金】	8:45	受付開始	
	9:30	オリエンテーション	【清水】
	9:50	アカデミック・アドバイジングが求められる背景と意義	【清水】
	11:00	学生理解	【君島】
	13:00	開会挨拶	【中井、茨城大学長 太田寛行】
	13:10	スチューデント・サクセスと大学職員 ※教務系職員研修と合同開催	【大津・清水・根本・宮林・小野】
	14:20	カリキュラムとアカデミック・アドバイジング	【中井】
	15:30	学生支援における面談・リファール・倫理の基本	【真鍋】
	16:40	個人ワーク	【清水】
17:30	終了→18:00 情報交換会		
9 月 13 日 【土】	9:30	前日のふりかえり	【清水】
	9:40	自大学における支援者の育成	【上月】
	10:50	アドバイジング体制の組織モデルと事例紹介	【福】
	12:30	個人ワーク/コンサルテーション	【講師全員】
	15:30	グループワーク	【清水】
	17:00	全体の振り返り	【清水】
	17:15	終了	

## 事前課題

(1) 所属大学で提供されているアカデミック・アドバイジングまたは学習支援について説明できるようにご準備ください(パンフレット、HP情報、組織体系図など)。加えて、ご自身がどのように関わっているのか、についても説明できるようにご準備ください。

(2) アカデミック・アドバイジングまたは学習支援の現状での課題や改善したいこと、新規に行いたいことについて、ご自身のお考えを記載してください。可能であれば、課題や取り組みたいことについてその背景にある学生ニーズや支援体制の現状についても記述してください。  
※申し込みされた方に入力用の資料を送付します。

## テキスト

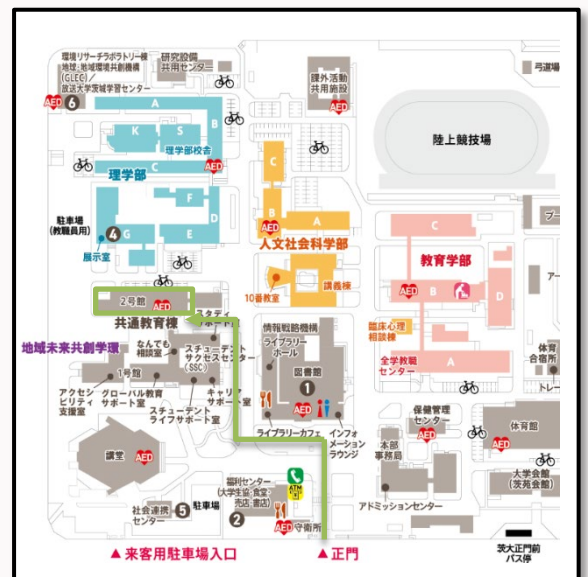
本講座では、『大学の学習支援Q&A』をテキストとして使用しますので、各自でご用意の上、当日ご持参願います。なお、同大学から複数名参加される場合も、一人一冊のご準備をお願いします。

『大学の学習支援Q&A』  
清水 栄子、中井 俊樹 編著  
出版年月日:2022/06/30  
ISBN:9784472406232



## アクセス

茨城大学 水戸キャンパス (水戸市文京2-1-1)  
共通教育棟2号館4階「43番教室」



## お問い合わせ

愛媛大学 教育学生支援部 教育企画課  
TEL:089-927-9154  
E-mail:kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

# インスティテューショナル・リサーチチャー 養成講座

日程: 令和7年10月25日(土)~26日(日)

会場: 愛媛大学城北キャンパス(対面開講)

対象: IRに関心を持つ教職員

先着30名

※ 民間企業等に勤務されている方の参加はお断りしております。

※ 2日間全プログラムに参加できる教職員の方に限ります。

お申し込み

★参加費: 4,000円

※主催校、共催校の所属教職員は無料

8月25日(月) ~ 10月6日(月)正午

- ◆ 定員人数(30名)に到達次第、募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。受付完了後、確認メールを送信します。いただいた情報は、本講座以外に使用することはありません。
- ◆ グループワークのため、班分け名簿を作成します。名簿には、氏名・学校名・所属・職種・職名のみ記載します。
- ◆ 多くの機関の方々にご参加いただくため、同一機関からのお申し込みが多数の場合は、全体のお申し込み状況により受講を制限させていただくことがあります。
- ◆ 参加費の支払い方法について  
研修終了後、申し込み時にフォームへ記載いただいた「振込用紙送付先」へ振込用紙をお送りします。届きましたら、期限までにお支払いください。  
なお、お申し込み後にキャンセルされた場合も参加費は請求させていただきます。
- ◆ 研修の効果を確認するため、事後アンケートにご協力をお願いいたします。
- ◆ 全プログラムの受講者には修了証をお渡しします。



お申し込みはWebから <https://web.opar.ehime-u.ac.jp>

## 実施目的

IRの担当者として、IRの意義や方法、データ分析や報告に関する実践的な知識とともに、所属大学におけるIRを改善するための具体的手法を身につけることを目的としています。

## 到達目標

1. IRの意義と活用の方針について説明できる
2. IRの活動を設計する方法を説明できる
3. データの分析や報告の基本的な方法を説明できる
4. IRを通じて所属大学の組織開発を推進する方法を説明できる
5. 所属大学におけるIRについての改善提案ができる
6. 多様な考えや経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることのできる

# 講師

- 中井俊樹 (愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室)
- 上月翔太 (愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室)
- 真鍋亮 (愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室)
- 竹中喜一 (近畿大学 IR・教育支援センター)
- 藤本正己 (山口大学 教育・学生支援機構教学マネジメント室)

## スケジュール

### 10月25日(土)

- 9:30 受付開始
- 10:00 開会挨拶・オリエンテーション 【真鍋】
- 10:20 IRとその意義を理解する 【中井】
- 11:20 IRの課題を共有する 【真鍋】
- 11:50 休憩
- 12:50 問いから設計へ 【上月】
- 13:50 基本的な分析を行う 【真鍋】
- 14:20 テキストデータを分析する 【藤本】
- 15:00 アンケートを実施する 【竹中】
- 15:50 中途退学を予防する 【上月】
- 16:50 他大学と比較する 【上月】
- 17:30 諸連絡等・終了

## 事前課題

- ①自大学における現行のIRの取り組みをワークシートにまとめてください。
- ②テキスト『大学IR入門』1章、2章、13章の内容を踏まえ、自大学のIR推進における課題をまとめてください。

▶提出期限: 10月10日(金)

▶提出先:

kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp



※受付完了後、ワークシートの様式をお送りします。  
 ※『大学IR入門』は各自でご入手いただき、研修当日にご持参ください。  
 ※提出いただいた資料は参加者間で共有します。

### 10月26日(日)

- 10:00 前日の振り返り・諸連絡 【真鍋】
- 10:10 結果の活用を支援する 【藤本】
- 11:00 IRの活用を促進する 【竹中】
- 11:50 休憩
- 12:50 IRの課題解決を検討する 【全講師】  
グループに分かれて  
IRの課題解決案の作成・発表・質疑応答
- 15:30 まとめとふりかえり 【真鍋】
- 15:45 閉会挨拶・クロージング 【真鍋】
- 16:00 終了

## アクセス

愛媛大学城北キャンパス(松山市文京町3番)  
 愛大ミューズ3階「M32講義室」  
 松山駅から:路面電車(伊予鉄道市内電車)  
 環状線①(古町方面行き)「赤十字病院前」下車



## お問い合わせ

愛媛大学教育学生支援部教育企画課

TEL:089-927-9154

mail:kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

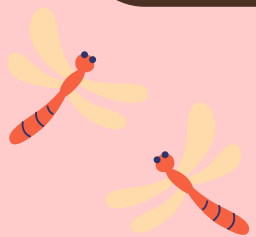


# アカデミック・アドバイザー 養成講座

2026  
1/30<sub>(金)</sub>, 31<sub>(土)</sub>

アドバイジングや学生支援に関する  
実践的な知識を身に付けよう！

## 対象



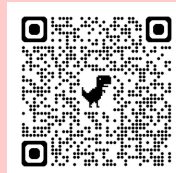
アカデミック・アドバイザー、  
または学生の履修相談や学習支援  
を担当している教職員で、  
実務経験が1年以上の方

## お申し込み

2025/11/7～2026/1/9

お申し込みはWebから

<https://web.opar.ehime-u.ac.jp>



## 参加費

5,000円

## 会場

愛媛大学城北キャンパス



主催：教職員能力開発拠点教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）

共催：日本アカデミック・アドバイジング協会、愛媛大学教育学生支援部

お問い合わせ：愛媛大学教育学生支援部教育企画課

☎ 089-927-9154

✉ [kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp)

 愛媛大学 教育企画室

# アカデミック・アドバイザー 養成講座

近年、日本の大学では、学生の多様化が一層進んでおり、学習歴や生活背景、抱える課題もさまざまです。こうした背景のもとで、学習への意識や履修に対する考え方にも幅が見られるようになってきました。たとえば履修計画においては、「なるべく楽に単位を取りたい」「自分で計画を立てることに不安を感じ、教員からの具体的な指示を求めたい」と考えるなど、受け身の姿勢を持つ学生も見られます。

こうした学生に対して支援を行うのが、アカデミック・アドバイザーです。アカデミック・アドバイザーは、履修支援にとどまらず、学習上の困難、進路や将来目標に関する相談など、幅広いニーズに対応する教職員であり、学生が自律的な学習者として成長できるよう導く役割を担っています。

本講座では、アドバイザーとして必要な知識や理論、支援の方法を体系的に学ぶとともに、参加者自身が直面している支援上の課題を整理し、各大学の実情に即したアクションプランの作成に取り組みます。

**日程：令和8年1月30日(金)、31日(土)**

**会場：愛媛大学 城北キャンパス** (愛媛県松山市文京町3)

**参加費：5,000円**

お申し込み

先着30名

令和7年11月7日(金) ~ 令和8年1月9日(金) 正午

- ・定員人数に到達次第、募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。受付完了後、確認メールを送信します。なお、いただいた情報は、本講座以外に使用することはございません。
- ・参加費の支払い方法について  
研修終了後、申し込み時にフォームへ記載いただいた「振込用紙送付先」へ振込用紙をお送りします。届きましたら、期限までにお支払いください。なお、お申し込み後にキャンセルされた場合も参加費は請求させていただきます。
- ・研修の効果を確認するため、事後アンケートにご協力をお願いいたします。

お申し込みはWebから <https://web.opar.ehime-u.ac.jp>



## 実施目的

アカデミック・アドバイザーの担当者として、アドバイザーの意義や方法、学生支援に関する実践的な知識とともに、所属大学における支援の改善に向けた手法を修得することを目指します。

## 到達目標

1. アカデミック・アドバイザーの意義と基本的な方法について説明できる。
2. アカデミック・アドバイザーとしての学生対応における効果的な方法と留意点を説明できる。
3. アカデミック・アドバイザーを通じた組織的な連携や教育改善の視点について説明できる。
4. 自大学におけるアドバイザー体制と支援の課題を分析し、具体的なアクションプランを作成できる。
5. 支援における多様な考え方や実践事例を尊重し、共に学び合う姿勢を示すことができる。

## 参加対象者

アカデミック・アドバイザー、または学生の履修相談や学習支援を担当している教職員で、実務経験が1年以上の方。

※アドバイザーという職名に限らず、履修指導や学習支援に関わっている方も対象としています。

※2日間全プログラムに参加できる方に限ります。

※多くの機関からご参加いただくため、同一機関からのお申し込みが多数となった場合は、全体の状況により受講を調整させていただくことがあります。

※全プログラムを受講された方には修了証を発行します。

【主催】教職員能力開発拠点 (愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

【共催】日本アカデミック・アドバイザー協会、愛媛大学教育学生支援部

## 講師

清水 栄子 (愛媛大学 教育・学生支援機構)  
 上月 翔太 (愛媛大学 教育・学生支援機構)  
 真鍋 亮 (愛媛大学 教育・学生支援機構)  
 蝶 慎一 (香川大学 大学教育基盤センター)  
 福 博克 (創価大学 文学部)



## スケジュール

1月30日【金】

9:00 受付開始  
 9:30 開会あいさつ  
 オリエンテーション  
 10:00 アカデミック・アドバイジングとその意義  
 11:10 アカデミック・アドバイジングとカリキュラム・マネジメント  
 13:10 学生理解  
 14:20 アカデミック・アドバイジングの実践  
 15:30 アカデミック・アドバイジングにおける倫理  
 16:40 個人ワーク  
 17:30 終了

【中井】  
 【清水】  
 【清水】  
 【上月】  
 【蝶】  
 【福】  
 【上月】  
 【清水】

1月31日【土】

9:30 前日のふりかえり  
 9:40 アカデミック・アドバイジングの組織モデル  
 10:20 アカデミック・アドバイジングを支える人材養成  
 11:20 個人ワーク/コンサルテーション  
 13:50 グループワーク  
 16:20 全体の振り返り  
 16:30 終了

【清水】  
 【清水】  
 【真鍋】  
 【全講師】  
 【全講師】  
 【清水】

## 事前課題

(1) 所属大学で提供されているアカデミック・アドバイジングまたは学習支援について説明できるようにご準備ください(パンフレット、HP情報、組織体系図など)。加えて、ご自身がどのように関わっているのか、についても説明できるようにご準備ください。

(2) アカデミック・アドバイジングまたは学習支援の現状での課題や改善したいこと、新規に行いたいことについて、ご自身のお考えを記載してください。可能であれば、課題や取り組みたいことについてその背景にある学生ニーズや支援体制の現状についても記述してください。

※申し込みされた方に入力用の資料を送付します。

## テキスト

本講座では、『大学の学習支援Q&A』をテキストとして使用しますので、各自でご用意の上、当日ご持参願います。なお、同大学から複数名参加される場合も、一人一冊のご準備をお願いします。

『大学の学習支援Q&A』  
 清水 栄子、中井 俊樹 編著  
 出版年月日:2022/06/30  
 ISBN:9784472406232



## アクセス

愛媛大学 城北キャンパス(愛媛県松山市文京町3)  
 愛大ミュージズ1階「アクティブ・ラーニングスペース2」



## お問い合わせ

愛媛大学 教育学生支援部 教育企画課  
 TEL:089-927-9154  
 E-mail:kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

# ファカルティ・ディベロッパー 養成講座

2026  
2/20(金), 21(土)

Welcome

FDの意義と課題

授業アンケート

FDの評価・改善

研修の企画

ティーチング・  
ポートフォリオ

ファカルティ・ディベロッパーに求められる  
知識・技能・態度を高めよう

対象

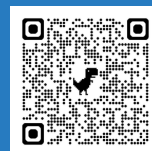
FDに関心のある大学教職員

お申込み

10月15日～12月15日

お申込みはWebから

<https://web.opar.ehime-u.ac.jp>



参加費

4,000円

会場

近畿大学東大阪キャンパス

主催 / 教職員能力開発拠点 (愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

共催 / 近畿大学 I R・教育支援センター

後援 / 日本高等教育開発協会

お問い合わせ / 愛媛大学教育学生支援部教育企画課

22

☎089-927-9154

✉kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

愛媛大学 教育企画室

# ファカルティ・ディベロッパー 養成講座

先着30名

日程:令和8年2月20日(金)、21日(土)

会場:近畿大学東大阪キャンパス3号館4階401教室

対象:FDに関心のある大学教職員

※民間企業等に勤務されている方の参加はお断りしております。

※2日間プログラム全てに参加できる教職員の方に限ります。

お申し込み

参加費:4,000円

10月15日(水) ~ 12月15日(月)

- ◆グループワークのため、班分け名簿を作成します。名簿には、氏名・学校名・所属・職種・職名のみ記載します。
- ◆定員人数(30名)に到達次第、募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。受付完了後、確認メールを送信します。いただいた情報は、本講座以外に使用することはありません。
- ◆多くの機関の方々にご参加いただくため、同一機関からのお申し込みが多数の場合は、全体のお申し込み状況により受講を制限させていただくことがあります。
- ◆研修の効果を確認するため、事後アンケートにご協力をお願いいたします。
- ◆全プログラムの受講者には修了証をお渡しします。

お申し込みはWebから <https://web.opar.ehime-u.ac.jp>



## 実施目的

FDの担当者として、FDの意義や方法、FDを通じたカリキュラム改革などの組織開発の進め方とともに、所属大学におけるFDを改善するための具体的手法を身につける。

## 到達目標

1. FDの意義を説明できる。
2. FDの基本的な手法について方法と留意点を説明できる。
3. 組織的なFDの展開の方法を挙げるができる。
4. FDを通じて所属大学の組織開発を推進する方法を説明できる。
5. 所属大学におけるFDについての改善提案ができる。
6. 多様な考えや経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることができる。

## 講師

中井 俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	教授
上月 翔太	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師
真鍋 亮	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教
竹中 喜一	近畿大学 I R・教育支援センター	准教授
吉田 博	徳島大学高等教育研究センター教育改革推進部門	准教授

## スケジュール

### 2月20日(金)

9:30 受付開始	
10:00 開会挨拶・オリエンテーション	
10:20 FDとその意義を理解する	【中井】
11:20 FDの課題を共有する	【真鍋】
13:00 研修を企画する	【上月】
13:50 授業アンケートを実施する	【真鍋】
14:40 ティーチング・ポートフォリオを活用する	【吉田】
15:30 教員の個別学習を支援する	【上月】
16:20 FDを通じてカリキュラムを改善する	【竹中】
17:00 諸連絡等・終了	

### 2月21日(土)

10:00 前日の振り返り・諸連絡	【真鍋】
10:10 FDを評価・改善する	【竹中】
11:00 FDの課題解決を検討する	【全講師】
※(～11:10) 説明	【上月】
※(～13:40) FDの課題解決案の作成(適宜休憩)	
※(～15:30) FDの課題解決案の発表、質疑応答	
15:40 まとめとふりかえり	【真鍋】
15:45 閉会挨拶・クロージング	
16:00 終了	

## 事前課題

- ・自大学における現行のFDの取り組みをワークシートにまとめてください。
- ・テキスト『大学FD入門』1章、2章、14章の内容を踏まえ、自大学のFD推進における課題をまとめてください。
- ※受付完了後、ワークシートの様式をお送りします。
- ※資料の1枚目右上に、大学名及び氏名をご記入ください。
- ※提出いただいた資料は参加者に配付し共有しません。

▶提出期限：1月5日(月)  
提出方法は受講者に別途通知します。

## アクセス

近畿大学東大阪キャンパス3号館4階401教室  
(大阪府東大阪市小若江3丁目4-1)

・近鉄大阪線「長瀬駅」から徒歩10分

(近畿大学HP参照)

<https://www.kindai.ac.jp/access/>

## お問い合わせ

愛媛大学教育学生支援部教育企画課  
TEL:089-927-9154  
mail:kियोiku@stu.ehime-u.ac.jp

主催 / 教職員能力開発拠点  
(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

<https://web.opar.ehime-u.ac.jp>

共催 / 近畿大学IR・教育支援センター

<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/ir/>

後援 / 日本高等教育開発協会

## II. 養成した専門人材のフォローアップ

### a. 事業の実施内容

令和7年度より、ファカルティ・ディベロップメント、スタッフ・ディベロップメント、カリキュラム、インスティテューショナル・リサーチ、アカデミック・アドバイジングの各領域において、本拠点事業の研修修了者を対象に、知識・経験に関する審査を行い、専門人材として認定し称号を付与する教職員能力開発拠点専門人材認定事業を開始した。本事業では、申請者に対して個別メンタリングや審査を通じたフォローアップを行っている。

また、養成した専門人材を対象に追跡調査を行い、実践状況の把握、振り返りの促進、相談対応による支援を行っている。

### b. 認定した専門人材

今年度は、教職員能力開発拠点スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（SDC）として1名を、令和7年8月8日の運営委員会において認定した。なお、新たに教職員能力開発拠点専門人材の認定制度が開始されたことに伴い、平成23年度に開始したSDCの新規認定は同年8月をもって終了した。これまでに計44名を認定している。

さらに、教職員能力開発拠点専門人材については、令和7年8月8日の運営委員会において審査委員となる11名を認定した。その内訳は、ファカルティ・ディベロップメント4名、カリキュラム2名、インスティテューショナル・リサーチ3名、アカデミック・アドバイジング2名である。また、今年度は4領域において計14名から申請があり、個別メンタリングや審査を通じたフォローアップを実施した。その後、令和8年3月10日の運営委員会において、14名全員を専門人材として認定した。内訳は、スタッフ・ディベロップメント2名、カリキュラム2名、インスティテューショナル・リサーチ3名、アカデミック・アドバイジング7名であった。

### Ⅲ. ニーズに応じた研修の開発と実施

#### a. 研修プログラムの提供

第4期の基本方針に基づき19本の研修プログラムを提供し、参加者総数は392名（令和8年3月23日現在）となった。本拠点の研修プログラムは対話形式やワークショップ形式等の双方向型を特徴としており、また、参加者同士のネットワーク形成の機会を提供するため、本拠点や共催校において対面実施を基本とし、プログラムの内容や時間等に応じてオンライン（同期・非同期）も活用した。今年度は、教務、教職関係の初任者を対象とした講座や大学院生等を対象としたプレFD研修を開催し、幅広い受講者のニーズに合わせた研修を提供した。さらに、大学職員の仕事に関心を持つ大学生と大学院学生を対象とした研修「プレSD 大学職員のリアル～大学で働くという選択肢～」を初めて開催した。本研修では、大学職員の多様な業務内容や役割を伝えるとともに、大学職員に求められる基本的能力の育成に取り組んだ。

※各プログラムの内容やアンケート集計結果等の詳細は、P. 27～46に記載。

（本拠点の研修プログラムの特徴）

1. FD／SD／IR／カリキュラム開発／学習支援等の専門家・実践的指導者になりうる人材の育成に力を入れている。
2. FD／SD／IR／カリキュラム開発／学習支援等の各種プログラムを実施している。
3. 新人からベテラン、リーダーまであらゆる立場の教職員にとって日々の業務改善につながる実践的な内容である。
4. 数多くのプログラムは、講義形式だけでなく、講師と受講者の間で行う対話形式や、受講者間のディスカッションによるワークショップ形式等の双方向型で実施されている。

## 教職員能力開発拠点が提供する研修プログラム(令和7年度)

令和8年3月23日現在

日 程	プログラム名	対象	受講者数	満足度
6月10日(火) 【対面】	学習評価の基本	FD	10	100
6月14日(土)～15日(日) 【対面】	第39回授業デザインワークショップ	FD	12	100
6月17日(火) 【対面】	アクティブラーニング入門セミナー	FD	8	100
6月18日(水) 【対面】	大人数講義法の基本	FD	13	100
7月11日(金)～12日(土) 【対面】	教職事務担当者講習会(初級編)	SD	27	100
7月18日(金)～19日(土) 【対面】	大学教育国際化推進担当者研修	FD/SD	27	100
8月4日(月)～9月19日(金) 【 Moodle・対面】	教授法入門-専門分野の学識を教授するために	ブレFD	21	100
9月4日(木)～5日(金) 【対面】	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	FD	12	100
9月12日(金)～13日(土) 【対面】	教務事務担当者講習会(初級編)	SD	46	100
9月12日(金)～13日(土) 【対面】	アカデミック・アドバイザー養成講座	FD/SD	33	100
9月17日(水) 【対面】	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 -課題分析図の活用-	FD	2	100
9月17日(水) 【対面】	ARCS動機づけモデルを活用した学習意欲を高める授業設計	FD	2	100
10月2日(木)～12月11日(木) 【Zoom】	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	FD	5	100
10月25日(土)～26日(日) 【対面】	インスティテューショナル・リサーチャー養成講座	FD/SD	10	100
12月6日(土) 【対面・Zoom】	ブレSD 1 day イベント 大学職員のリアル ～大学で働くという選択肢～	ブレSD	29	100
1月23日(金)【Zoom】 1月30日(金)【対面】	大学教育国際化 基礎知識&マネジメントセミナー	SD	92	98
1月30日(金)～31日(土) 【対面】	アカデミック・アドバイザー養成講座	FD/SD	23	100
2月10日(火)～3月23日(月) 【Zoom】	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	FD	3	100
2月20日(金)～21日(土) 【対面】	ファカルティ・ディベロッパー養成講座	FD	17	100
		合計	392	99.7

## 学習評価の基本

### 【実施概要】

#### ▶講師

上月翔太、真鍋亮（愛媛大学教育企画室）

#### ▶日時

令和7年6月10日（火） 10:00～12:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージ「アクティブ・ラーニングスペース2」

#### ▶参加者

10名  
[学内9名・学外1名\_聖カタリナ大学(1)]

#### ▶目標

1. 学習評価の意義と目的を説明することができる。
2. 学習評価の基本原則を説明することができる。
3. 適切な評価の方法・基準を選択・設定できる。
4. 適切で効果的なフィードバックを行うことができる。
5. 自身の授業における学習評価の改善案をあげることができる。

#### ▶内容

1. 学習評価の構成要素  
学習評価の基本原則について扱います
2. 学習評価の方針  
授業において学習評価を実践するための方針について考えます
3. 学習評価の方法  
主要な評価方法の実践の方法や留意点を考えます
4. 学習評価の実践  
参加者の授業実践における学習評価の改善案を考え共有します。

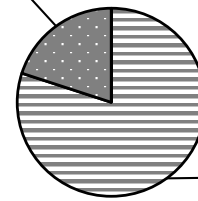
### 【アンケート結果】

#### ▶回答者（回答率）

10名（100%）

#### ▶満足度：全体的に満足できるものだった

③ どちらかといえば  
そう思う  
20%



④ そう思う  
80%

#### ▶コメント

##### 【この研修の良かった点】

- 自分の評価の仕方を見直すきっかけとなりました。評価は学生にとって動機付けとなり、学習へのインセンティブになるが、学生にトラウマのような鮮烈な印象を残すこともあることに気がつきました。
- 「基本」とあるように学習評価のポイントが整理されており良かった。
- ルーブリックを初めて知ったので、自分のシラバスに反映させて評価基準を分かりやすくしたいと思った。

##### 【この研修の改善点】

- こういうケースでは、絶対評価・相対評価・個人内評価を使ってはいけないというパターンも知りたかった。



【研修の様子】

## 第39回授業デザインワークショップ

### 【実施概要】

#### ▶講師

中井俊樹、中山晃、Kawamoto Julia Mika、清水栄子、  
上月翔太、真鍋亮（愛媛大学教育企画室）

#### ▶日時

令和7年6月14日（土）～15日（日）

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージ「アクティブ・ラーニングスペース2」ほか

#### ▶参加者

12名  
[学内10名・学外2名\_松山短期大学(1)、岡山理科大学(1)]

#### ▶目標

1. 学生の学習を促すシラバスを書くことができる。
2. さまざまな授業方法の特徴を理解し、学習目標に適した授業方法を選択できる。
3. 学習評価の基本を理解し、学習目標に適した評価方法を選択できる。
4. アクティブラーニングを取り入れた90分の授業の計画を作成できる。
5. 大学教員として踏まえるべき倫理について説明できる。
6. 作成した授業計画案にもとづいて模擬授業を実践できる。
7. 他の参加者の考えや経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることができる。

#### ▶内容

##### 《1日目》

1. オリエンテーション
2. アイスブレイク
3. 「授業設計」
4. シラバスのブラッシュアップ
5. シラバスのピア・レビュー
6. 「授業の構成」
7. 「授業実践」
8. 「学習評価」
9. 授業計画書の作成と模擬授業の準備

##### 《2日目》

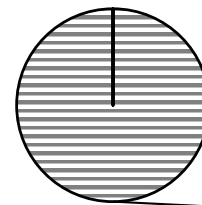
1. 「フィードバックの方法」
2. 「大学教員の倫理」
3. 模擬授業
4. 振り返り
5. 閉会式

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

11名(92%)

#### ▶満足度:全体的に満足できるものだった



④ そう思う  
100%

#### ▶コメント

##### 【この研修の良かった点】

〇行く前は少し憂鬱でしたが、終わった今は達成感があり、  
今後は習ったことを生かして頑張ろうという気持ちでいま  
す。全く違う領域の先生と研究や教育の話ができるのは  
刺激的で楽しかったです。ありがとうございました。

##### 【この研修の改善点】

〇生成AIとどう向き合うか(学生にどの程度までの使用を  
認めるか?等)があると、実務的な指針として嬉しかった  
かな、と思いました。



【ワークショップの様子】

## アクティブラーニング入門セミナー

## 【実施概要】

## ▶講師

上月翔太、真鍋亮（愛媛大学教育企画室）

## ▶日時

令和7年6月17日（火） 10:00～12:00

## ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージアム「アクティブ・ラーニングスペース2」

## ▶参加者

8名  
[学内7名・学外1名\_松山大学(1)]

## ▶目標

1. アクティブラーニングの意義を説明できる。
2. 適切な学習課題を組み立てるために必要な考え方を説明できる。
3. 授業に学習活動を取り入れる具体的な工夫を複数挙げることができる。

## ▶内容

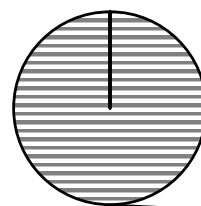
1. アクティブラーニングを理解する
2. 学習課題を組み立てる
3. 学習活動を組み立てる

## 【アンケート結果】

## ▶回答者(回答率)

8名(100%)

## ▶満足度:全体的に満足できるものだった



④ そう思う  
100%

## ▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- アクティブラーニングをするにあたり何を重視しなければいけないのかがよく分かった。授業に活かしていきたいと思った。
- アクティブラーニングの手法に加えて、その理論的な背景が説明されており理解が進みました。
- 他の先生方の実際の取り組み内容を聞くことができ、参考になった。自分の講義にも取り込みたいと思う。

〔この研修の改善点〕

- 講師の方の模擬授業的な実践例があればよりイメージがしやすいと思った。
- ワークの残り時間が分かるように表示して頂くと、時間配分がより分かり易いかもと思いました。

## 大人数講義法の基本

### 【実施概要】

#### ▶講師

上月翔太（愛媛大学教育企画室）

#### ▶日時

令和7年6月18日（水） 10:00～12:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージ「アクティブ・ラーニングスペース2」

#### ▶参加者

13名  
[学内9名・学外4名\_松山大学(2)、徳島文理大学(2)]

#### ▶目標

1. 大人数講義の利点を説明できる。
2. 講義法の基本について自身の実践を振り返り、改善点を見い出せる。
3. 大人数授業を効率化する工夫を1つ以上挙げることができる。
4. 大人数授業においてグループワークを取り入れる方法を1つ以上挙げることができる。
5. 学習した内容について自分の授業に応用し、実践できる。

#### ▶内容

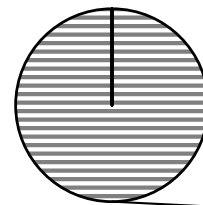
1. 大人数講義の利点指針
2. 講義法の基本
3. 大人数講義運営の課題
4. 大人数講義でのグループワーク
5. まとめと振り返り

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

13名(100%)

#### ▶満足度:全体的に満足できるものだった



④ そう思う  
100%

#### ▶コメント

##### 〔この研修の良かった点〕

- まず講義の仕方自体、これまで自己流だったので様々な考え方に触れられた。
- 大人数講義であっても、学生の集中力を保ったり、参加を促したりするためのテクニックを具体的に紹介していただき、参考になりました。
- 大人数講義の経験はまだないが、実際に行われている先生の経験や対処法を伺って参考になりました。

##### 〔この研修の改善点〕

- 春や夏休みなど講義が始まる前の時期に開催してほしいです。



【講義の様子】

## 教職事務担当者講習会(初級編)

## 【実施概要】

## ▶講師

多畑寿城(元学校法人吉学園<神戸女子大学>)  
 小野勝士(龍谷大学)  
 有馬美耶子(白百合女子大学)  
 石樽三鈴(中部大学)  
 徳丸由紀(日本文理大学)

## ▶日時

令和7年7月11日(金)~12日(土)

## ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
 工学部2号館3階「PBL演習室345」

## ▶参加者

27名

[学内6名・学外21名、愛知県立大学(2)、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学(2)、中部大学(2)、沖縄大学(1)、岐阜聖徳学園大学(1)、公立千葉科学技術大学(1)、高知工科大学(1)、阪南大学(1)、西南学院大学(1)、創価大学(1)、東京都市大学(1)、東洋大学(1)、桃山学院大学(1)、福井工業大学(1)、兵庫教育大学(1)、北九州市立大学(1)、名古屋外国語大学(1)、琉球大学(1)]

## ▶目標

1. 教職事務の代表的な業務の根拠や背景を理解することができる。
2. 教務事務とのかかわりを理解し担当業務に活かすことができる。
3. 教職事務の的確な遂行に必要な情報を自ら収集し、担当業務へ活用することができる。
4. 教職課程の運営を職員の立場で支援することができる。

## ▶内容

## 《1日目》

1. オリエンテーション
2. 基礎からの教職課程事務
3. 学生支援
4. 課程認定申請の流れ・ポイント
5. 意見交換・トークセッション
6. 振り返り

## 《2日目》

1. 教育実習・介護等体験のポイント
2. 法令の読み方・情報収集の方法
3. 事務職員の立場・役割について
4. 意見交換・トークセッション
5. まとめ

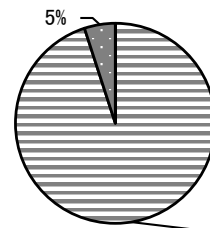
## 【アンケート結果】

## ▶回答者(回答率)

20名(74%)

## ▶満足度:全体的に満足できるものだった

③ どちらかといえば  
 思う  
 5%



④ そう思う  
 95%

## ▶コメント

## [この研修の良かった点]

- 他大学の担当者と情報交換をすることができたこと。自大学では教えてもらえないことのない、教職課程や法律に関する初歩からの学びを丁寧に教えていただき、大変有意義な研修でした。
- 少人数のグループに分けられ、意見交換がしやすかった。また、講師が複数いらっしゃり、それぞれの経験や角度から教職課程について学ぶことができたことが良かった。
- 教職事務の基礎的な内容を扱っていたので、教職担当初心者でもわかりやすく、今後の業務のイメージをつけることができたのが良かったです。

## [この研修の改善点]

- 1日目の課程認定の申請のポイントと2日目の法令の読み方の順番を逆にしてほしい。
- 四国開催は交通の便が悪いので、本州での開催としてもらいたいです。



【集合写真】

## 大学教育の国際化推進担当者研修

## 【実施概要】

## ▶講師

大津正知(茨城大学)  
鈴木悠(東京音楽大学)  
大竹秀和(立教大学)  
宮林常崇(東京都立大学)  
村上健一郎(横浜国立大学)  
中井俊樹、上月翔太(愛媛大学教育企画室)  
岩田剛(愛媛大学国際連携支援部)

## ▶日時

令和7年7月18日(金)～19日(土)

## ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
工学部2号館3階「PBL演習室345」

## ▶参加者

27名

[学内2名・学外25名 関西学院大学(2)、同志社大学(2)、九州工業大学(2)、松山大学(2)、筑波大学(2)、青森公立大学(1)、九州大学(1)、名古屋学院大学(1)、北海道教育大学(1)、名古屋芸術大学(1)、国際基督教大学(1)、西南女学院大学(1)、神戸大学(1)、岩手県立大学(1)、東京都立大学(1)、日本赤十字九州国際看護大学(1)、佐賀大学(1)、京都文教大学(1)、大阪公立大学(1)、東京理科大学(1)]

## ▶目標

1. 大学教育の国際化が求められる意義と背景を説明できる。
2. 学生の海外への送り出しにかかわる留意点やプログラム設計、学生支援の方法を説明できる。
3. 留学生を受け入れる際の留意点やプログラム設計、学生支援の方法を説明できる。
4. 大学教育の国際化に向けた自大学の組織的課題と改善策を示すことができる。
5. 大学教育の国際化に関する多様な考え方や経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることができる。

## ▶内容

## 《1日目》

1. オリエンテーション
2. カリキュラム編成の基本
3. 国際化を取り巻く教育制度・教務
4. 海外派遣プログラムの設計
5. 海外留学の支援
6. 留学生の募集と受入れ
7. 1日目の振り返り

## 《2日目》

1. 留学生にかかわる制度
2. 異文化コミュニケーション
3. 国際化を推進する組織と意思決定
4. 演習(4つのテーマを事前を選択)
  - テーマA「学生の海外派遣」
  - テーマB「留学生の受入」
  - テーマC「国際化のための教務・教育企画支援」
  - テーマD「国際化のための組織づくり・職員育成」

## 【アンケート結果】

## ▶回答者(回答率)

24名(89%)

## ▶満足度:全体的に満足できるものだった

③ どちらかといえば  
そう思う  
17%



④ そう思う  
83%

## ▶コメント

## 〔この研修の良かった点〕

- 国際系の業務を網羅的に学ぶことができよかった。教員や職員、若手やベテランなど様々な立場の方のお話を聞いてより良い学びになったと思う。
- 国際関連部署と教務関連部署それぞれの視点からの捉え方を随所でお話いただいたことは、様々なバックボーンの参加者がいることも踏まえ、非常に有益だったと考える。
- 講習内容がテキストを参考に進められていたところが、深く学習できるように工夫されていたように思う。
- 今後、自分一人では中々解決出来ない事に会った時に、知識・経験が豊富な方に相談できる繋がりを築く機会をご提供いただき、非常に有難かった。

## 〔この研修の改善点〕

- 国際業務が網羅されている点良かったが、もう少し深掘りがあっても良かったかもしれない。
- 各講義においても、もう少しグループワークと発表等の時間があっても良いように思いました。また、質疑応答の時間もあって良いように思いました。



【集合写真】

## 教授法入門-専門分野の学識を教授するために

### 【実施概要】

#### ▶講師

中井俊樹、Kawamoto Julia Mika、上月翔太  
(愛媛大学教育企画室)

#### ▶日時

〈オンデマンド学習〉令和7年8月4日(月)~9月16日(火)  
〈対面研修〉令和7年9月19日(金) 13:00~18:00

#### ▶場所

〈オンデマンド学習〉Moodle  
〈対面研修〉愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージアム「M21」ほか

#### ▶参加者

21名  
[学内20名・学外1名\_松山大学(1)]

#### ▶目標

1. 大学において指導や教育に携わる意義を説明できる。
2. 授業設計と学習評価の基本を踏まえたシラバスを書くことができる。
3. わかりやすい説明や学習者の活動を取り入れた授業を計画し実践できる。
4. 教育の倫理について自身を省察し意識した言動をとることができる。
5. 異なる専門分野の受講者と積極的にかかわりながら共に学び合うことに貢献できる。

#### ▶内容

##### 《オンデマンド学習》

1. 導入: 授業の説明
2. 授業設計: コース設計の基本、クラス設計の基本
3. 学習評価: 学習評価の基本、学習評価の実践例
4. 授業方法: 講義法とは、アクティブラーニングの実践方法
5. 教育における倫理: 倫理を意識する必要性、倫理観の向上方法
6. 模擬授業に向けて: クラス設計の基本、実施のポイント

##### 《対面研修》

1. シラバスと授業計画書のピアレビュー
2. マイクロティーチング(模擬授業)の実践
3. 全体のまとめ

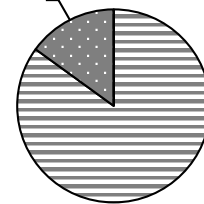
### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

20名(95%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった

③どちらかといえば  
そう思う  
15%



④そう思う  
85%

#### ▶コメント

##### 【この研修の良かった点】

- シラバスの作成、模擬授業スライドの作成、非常に楽しく、良い経験となりました。実際にするため、その場でフィードバックをもらえる点が良かったです。
- 他学部の人との交流ができた。
- 個人面談が合間にあったので、不安な点を確認させてもらえてよかったです。
- オンデマンドの時にいくつか課題を設定していただいた点。さらに他の受講生の回答がみられるものもあって良かった。

##### 【この研修の改善点】

- 模擬授業の時間10分は少し短すぎるかと思います。特に文学は前提知識なしでは語れない部分があるのでもう少し長いとありがたかったです。
- 授業名を設定するのが難しかったです。そこが醍醐味かもですが…。



【研修の様子】

## ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

### 【実施概要】

#### ▶講師

中井俊樹、中山晃、Kawamoto Julia Mika、上月翔太  
 (愛媛大学教育企画室)  
 丸山智子(愛媛大学教育・学生支援機構)  
 高橋平徳(愛媛大学教育次世代育成拠点)

#### ▶日時

令和7年9月4日(木)～5日(金)

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
 愛大ミュージ「アクティブ・ラーニングスペース2」ほか

#### ▶参加者

12名  
 [学内12名]

#### ▶目標

1. ティーチング・ポートフォリオ(TP)とは何かを説明できる。
2. ティーチング・ポートフォリオの必要性・有効性について説明できる。
3. ティーチング・ポートフォリオ作成の要点と手順を説明できる。
4. ティーチング・ポートフォリオを作成できる。

#### ▶内容

《1日目》

1. オリエンテーション
2. TP作成作業
3. 第1回個人ミーティング
4. TP作成作業
5. 初稿提出

《2日目》

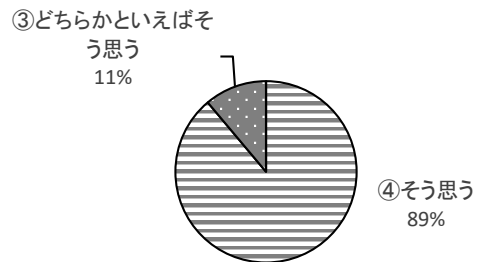
1. TP作成作業
2. 第2回個人ミーティング
3. TP作成作業・発表準備
4. 第2校原稿確認
5. TP発表・閉会式

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

9名(75%)

#### ▶満足度:全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- ティーチング・ポートフォリオ作成方法だけでなく、その重要性や意義を理解できました。
- 自分の授業を整理できるほか、他の先生の授業も見られるため、今後の授業にとっても参考になると考えます。

〔この研修の改善点〕

- もし可能であれば、良くない事例についてもご紹介いただけると、良し悪しの判断が付きやすくなると思いました。
- 静かに集中してワークに取り組みたい瞬間があった。研究室などに戻らず、皆でまとまった部屋でやることにも意味があると思うので、贅沢かもしれないが、会話OKな部屋と集中用の別室があると良いかもしれない。



【ワークショップの様子】

## 教務事務担当者講習会(初級編)

## 【実施概要】

## ▶講師

宮林常崇(東京都立大学)  
 小野勝士(龍谷大学)  
 大津正知(茨城大学)  
 清水栄子(愛媛大学教育企画室)  
 前河泰正(大阪国際大学)  
 龍山雄太(日本工業大学)  
 向井晴香(愛媛大学教育学生支援部)  
 根本剛(茨城大学)

## ▶日時

令和7年9月12日(金)～13日(土)

## ▶場所

茨城大学 水戸キャンパス  
 共通教育棟2号館4階「47番教室」

## ▶参加者

46名

[学内1名・学外45名 茨城大学(15)、茨城キリスト教大学(3)、筑波技術大学(2)、帝京大学(2)、群馬大学(2)、三重大学(2)、東京電機大学(2)、北陸大学(2)、愛知学院大学(1)、茨城県立医療大学(1)、金沢工業大学(1)、九州工業大学(1)、高知大学(1)、作新学院大学(1)、四天王寺大学(1)、周南公立大学(1)、常磐大学(1)、静岡県立大学(1)、大東文化大学(1)、大同大学(1)、東京成徳大学(1)、東洋大学(1)、日本赤十字看護大学(1)]

## ▶目標

1. 教務事務の代表的な業務の根拠や背景を理解することができる。
2. 大学の裁量を理解し担当業務に活かすことができる。
3. 教務事務の的確な遂行に必要な情報を自ら収集し、担当業務へ活用することができる。
4. 職員の立場で大学教育や学生支援に貢献する方法を理解できる。

## ▶内容

## 《1日目》

1. オリエンテーション&アイスブレイク
2. 教務事務の全体像と心構え
3. 法令の読み方
4. 教務事務を取り巻く法令・制度

## 《2日目》

1. 教務事務を取り巻く政策
2. 教学組織の理解と教職協働
3. ケーススタディⅠ  
～合理的配慮～
4. ケーススタディⅡ  
～多様なメディアの活用／大学教育の国際化～
5. 教務系業務を探索する
6. まとめと振り返り

## 【アンケート結果】

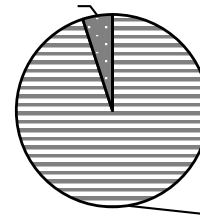
## ▶回答者(回答率)

40名(87%)

## ▶満足度:全体的に満足できるものだった

③ どちらかといえばそう思う

5%



④ そう思う  
95%

## ▶コメント

## [この研修の良かった点]

○教務事務に携わってまだ日が浅いため、当初は不十分な知識で意見を述べることにためらいがありましたが、基礎的な内容から丁寧に学ぶことができる方式で、また、同じような立場にある他機関の方々とざっくばらんに意見交換ができたこともあり、非常に有意義な時間となりました。

○法令・制度の基礎から最新の高等教育政策、そして実際のケーススタディまで、多岐にわたる内容で構成されていたので、教務事務が専門的な仕事であると再認識することができました。

○教務事務に関する基礎的で非常に重要な知識を得られるとともに、他大学職員との交流も深められるところが非常に良いと思いました。

## [この研修の改善点]

○両日ともに教室後方のグループだったため、またグループ名のスタンドがスクリーンに被っていたため、投影のみの資料があまりよく見えなかった。

○内容が充実しているため難しいかと思うのですが、話し合いが終わらないこともありましたが、グループワークの時間がもう少し欲しいと感じました。



【集合写真】

## アカデミック・アドバイザー養成講座

## 【実施概要】

## ▶講師

君島菜菜（大正大学）  
 福博充（創価大学）  
 大津正知（茨城大学）  
 宮林常崇（東京都立大学）  
 小野勝士（龍谷大学）  
 根本剛（茨城大学）  
 竹中喜一（近畿大学）  
 中井俊樹、清水栄子、上月翔太、真鍋亮  
 （愛媛大学教育企画室）

## ▶日時

令和7年9月12日（金）～13日（土）

## ▶場所

茨城大学 水戸キャンパス  
 共通教育棟2号館4階「43番教室」

## ▶参加者

33名  
 [学内1名・学外32名 茨城大学(6)、京都芸術大学(2)、愛知工業大学(1)、戸板女子短期大学(1)、高崎健康福祉大学(1)、桜美林大学(1)、札幌大学(1)、駿河台大学(1)、尚綱学院大学(1)、昭和音楽大学(1)、松本大学(1)、城西大学(2)、新潟大学(2)、千葉商科大学(2)、創価大学(1)、長岡造形大学(1)、東京都立大学(1)、東北芸術工科大学(2)、東北工業大学(1)、東洋大学(1)、和光大学(1)、佛教大学(1)]

## ▶目標

1. アカデミック・アドバイジングの意義と基本的な方法について説明できる
2. アカデミック・アドバイザーとしての学生対応における効果的な方法と留意点を説明できる
3. アカデミック・アドバイジングを通じた組織的な連携や教育改善の視点について説明できる
4. 自大学におけるアドバイジング体制と支援の課題を分析し、具体的なアクションプランを作成できる
5. 支援における多様な考え方や実践事例を尊重し、共に学び合う姿勢を示すことができる

## ▶内容

## 《1日目》

1. オリエンテーション
2. アカデミック・アドバイジングが求められる背景と意義
3. 学生理解
4. スチューデント・サクセスと大学職員
5. カリキュラムとアカデミック・アドバイジング
6. 学生支援における面談・リファーマル・倫理の基本
7. 個人ワーク

## 《2日目》

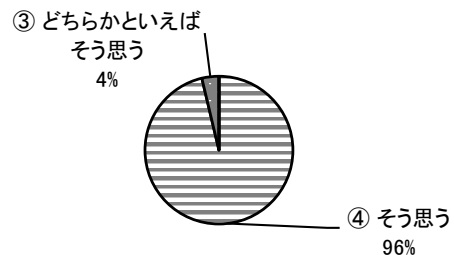
1. 自大学における支援者の育成
2. アドバイジング体制の組織モデルと事例紹介
3. 個人ワーク/コンサルテーション
4. グループワーク
5. 全体の振り返り

## 【アンケート結果】

## ▶回答者（回答率）

27名（82%）

## ▶満足度：全体的に満足できるものだった



## ▶コメント

## 〔この研修の良かった点〕

- 講師の先生方に、自らのアクションプランについて相談できるのがよい。また、教務担当者講習会と合同の懇親会が目新しく感じ、若い職員と交流することが出来てよかった。
- 事前学習により、自身が考えている取組の現状や課題等を整理でき、良い機会となりました。
- 他大学の受講者の方と交流をもてたことで、各大学の学習支援の体制等を知ることができ、非常に参考になりました。また、自身の大学での取り組みについても同じグループのメンバーからフィードバックを受けることができてよかったです。

## 〔この研修の改善点〕

- 2日間で詰め込んだので、もう少し余裕のあるスケジュールにさせていただき、もう一回集まるようなじっくり学んで研修ができたらと思いました。
- 養成講座を受講した次のステップの継続研修、もしくはオンラインなどでのAP進捗報告会（意見交換会や相談の場）があると嬉しいです。



【集合写真】

学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計  
-課題分析図の活用-

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝（愛媛大学教育・学生支援機構）

▶日時

令和7年9月17日（水） 13:00～15:00

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージ「アクティブ・ラーニングスペース2」

▶参加者

2名  
[学内2名]

▶目標

1. 学習目標を行動目標として明確に表現できる。
2. 自身の教授内容の課題分析図が作成できる。
3. 課題分析の結果をもとに、授業構成の改善案を立てることができる。

▶内容

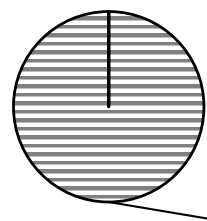
学生の学びやすさと学習意欲を高めるために、いくつかのID（インストラクショナル・デザイン）理論を用いて授業設計の手法を学びます。学習意欲は、学びやすさによって維持・促進され、動機づけによって高めることができます。学びやすさや意欲を設計するためには、教員が自身の教授内容を明確にし、学生目線で再構築する作業が必要です。その第一段階として、学生に対して「この授業で何ができるようになればよいのか」が具体的に伝わる学習目標を提示します。次に教員の頭にある既に構成された教授内容を一旦分解します。これを課題分析といい、分解した学習要素をより学びやすく、意欲の向上に効果的な学習順序になるよう再構築します。本プログラムでは、課題分析のワークを通じて、これからの授業改善に役立つヒントを持ち帰っていただきます。

【アンケート結果】

▶回答者（回答率）

2名（100%）

▶満足度：全体的に満足できるものだった



④ そう思う  
100%

▶コメント

【この研修の良かった点】

○受講生が少なかったこともあり、自分の授業について多角的な意見をいただきました。講師の先生のアドバイスも示唆に富むものでした。後期の授業で活用していきたいと思います。



【研修の様子】

## ARCS動機づけモデルを活用した学習意欲を高める授業設計

### 【実施概要】

#### ▶講師

仲道雅輝（愛媛大学教育・学生支援機構）

#### ▶日時

令和7年9月17日（水） 13:15～17:15

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージ「アクティブ・ラーニングスペース2」

#### ▶参加者

2名  
[学内2名]

#### ▶目標

1. 「インストラクショナル・デザイン（ID／教育設計）」が課題解決の方法論であることを説明できる。
2. 自分の授業を振り返り、到達目標を明確化するためのポイントが説明できる。
3. 学習者を動機づけるための一つの手法（ARCS動機づけモデル）を活用し、授業設計のヒントを得ることができる。

#### ▶内容

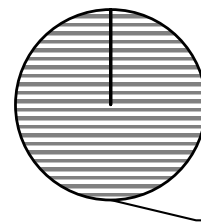
本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見つめ直し、何が課題であるかについて考えるところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン（教育設計）（以下、IDという）の中から、学習者を動機づけするための手法（ARCS動機づけモデル）や学習者の学びを支援するための働きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークショップ形式にて課題解決策の糸口を探っていきます。

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者（回答率）

2名（100%）

#### ▶満足度：全体的に満足できるものだった



④ そう思う  
100%

#### ▶コメント

##### 【この研修の良かった点】

○自分の授業の懸念についてもアドバイスをくださり、後期の授業に向けたモチベーションが高まりました。私のせいで今回のクラスを脱線させてしまったのではないかと心配です。



【研修の様子】

## ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

### 【実施概要】

#### ▶講師

上月翔太（愛媛大学教育企画室）

#### ▶日時

令和7年10月2日(木)～12月11日(木)

#### ▶場所

オンライン開催(Zoom)

#### ▶参加者

5名

[学内5名]

#### ▶目標

1. ティーチング・ポートフォリオ(TP)とは何かを説明できる。
2. ティーチング・ポートフォリオの必要性・有効性について説明できる。
3. ティーチング・ポートフォリオ作成の要点と手順を説明できる。
4. ティーチング・ポートフォリオを作成できる。

#### ▶内容

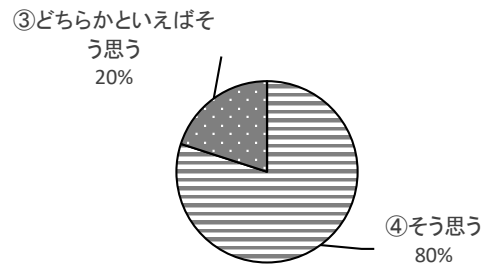
1. オリエンテーション
2. ティーチング・ポートフォリオとは何か
3. 準備のためのミニワーク
4. 個別メンタリング
5. TP作成
6. 発表準備
7. TP発表
8. まとめとふりかえり

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

5名(100%)

#### ▶満足度:全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

##### 【この研修の良かった点】

- 全くの他分野の教育理念から方法まで、知ることができたのが自身の成長につながったと思われる。
- 他者の発表を聞いて、学生への色々なアプローチがあると知ることができた。
- 他の先生方の取り組みや工夫されていることなどを聴くことができて、とても参考になった。

##### 【この研修の改善点】

- 今後もオンライン形式のものがあると、先生方も参加しやすいと思われる。

## インスティテューショナル・リサーチャー養成講座

### 【実施概要】

#### ▶講師

竹中喜一（近畿大学）  
藤本正己（山口大学）  
中井俊樹、上月翔太、真鍋亮（愛媛大学教育企画室）

#### ▶日時

令和7年10月25日(土)～26日(日)

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス 愛大ミュージアム「M32」

#### ▶参加者

10名  
[学内0名・学外10名 茨城大学(1)、亜細亜大学(1)、叡啓大学(1)、熊本学園大学(1)、国士舘大学(2)、桜美林大学(1)、札幌大学(1)、周南公立大学(1)、立教大学(1)]

#### ▶目標

1. IRの意義と活用の方針について説明できる
2. IRの活動を設計する方法を説明できる
3. データの分析や報告の基本的な方法を説明できる
4. IRを通じて所属大学の組織開発を推進する方法を説明できる
5. 所属大学におけるIRについての改善提案ができる
6. 多様な考えや経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることできる

#### ▶内容

##### 《1日目》

1. オリエンテーション
2. IRとその意義を理解する
3. IRの課題を共有する
4. 問いから設計へ
5. 基本的な分析を行う
6. テキストデータを分析する
7. アンケートを実施する
8. 中途退学を予防する

##### 《2日目》

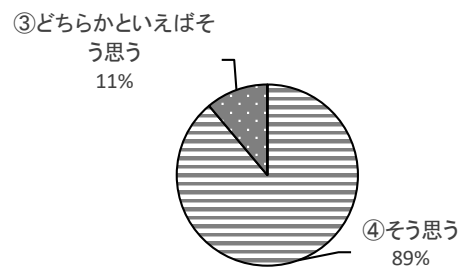
1. 結果の活用を支援
2. IRの活用を促進する
3. IRの課題解決を検討する(グループに分かれて) 解決案の作成・発表・質疑応答
4. まとめとふりかえり

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

9名(90%)

#### ▶満足度:全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

##### 【この研修の良かった点】

○『大学IR入門』の内容について講義やワークを通して理解を補強できたことはもちろん、他大学の事例や困りごとの共有をすることで、自大学と他大学が共通で抱えている課題や自大学の立ち位置を客観的に確認することができた。また、IR担当者の横のつながりができたこともとても良かったです。個別面談で具体的なアドバイスをいただけたことや、グループワークで他学の取り組みの生の声を知ることができた。

○情報収集、集計、分析、応用的な使い方など、基本的にはいずれの内容も大変有意義でした。

##### 【この研修の改善点】

○内容が充実しているので仕方ない面はあるものの、講義の一つ一つがやや駆け足気味だったと感じました。テキストの内容についての事前課題を増やしたうえで、講義ではグループワーク中心に余裕を持ったスケジュールにできるといいのではないのでしょうか。

○IRの課題解決については講師への相談も含めてもう少し時間いただけるとより具体的に考えられると思いました。



【集合写真】

## 大学職員のリアル～大学で働くという選択肢～

### 【実施概要】

#### ▶講師

上月翔太（愛媛大学教育企画室）  
石川尚、小川達也（愛媛大学教育学生支援部）

#### ▶日時

令和7年12月6日（土） 10:00～16:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージ「アクティブ・ラーニングスペース2」  
※午前中は対面・オンライン（Zoom）のハイブリッド開催

#### ▶参加者

29名  
〔学内13名・学外16名 愛知大学（4）、人間環境大学（3）、  
徳島文理大学（3）、大阪女学院大学（2）、高松大学（1）、  
静岡県立大学（1）、大阪学院大学（1）、大阪体育大学（1）〕

#### ▶目標

1. 大学職員の業務内容と役割について具体的に説明できる。
2. 大学職員として求められる行動と姿勢を理解し、自身の行動に照らして考察できる。
3. 大学職員というキャリアの魅力や社会的意義について自分の言葉で語る事ができる。

#### ▶内容

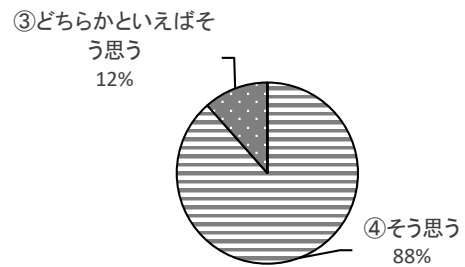
1. オープニング
2. 大学職員の仕事のリアル～大学職員論入門～
3. 未来の大学を考える～企画力育成入門～
4. 大学職員として求められる人材
5. クロージング

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者（回答率）

26名（90%）

#### ▶満足度：全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

##### 〔この研修の良かった点〕

- 実際に大学職員の方の声を聞くことができ、文字通り大学職員のリアルを知ることができて、モチベーションが上がった。他学部の人との交流ができた。
- 将来の大学入試制度について仲間と協力しながら議論できた点良かった。また、大学職員の方と何度もお話しする機会があり、疑問に思っていることを解消することができ有意義な時間を過ごすことができた。
- もともと大学職員については関心があってもあまり理解できていなかったが、今回の講義でどんな仕事なのか分かったと思う。また自分の将来について考えてみたい。

##### 〔この研修の改善点〕

- 企画発表のフィードバックに、もう少し時間をとってほしい。発表し終わった後すぐにフィードバックが貰えたほうが良かったと思う。
- 公務員試験の対策にも関わってくるので実施時期は早いといいのではと考えます。



【研修の様子】

大学教育国際化 基礎知識&マネジメントセミナー  
～チームで業務に取り組む～

【実施概要】

▶講師

- 宮林常崇 (東京都立大学)
- 大竹秀和 (立教大学)
- 村上 健一郎 (元横浜国立大学)
- 香川 愁吾 (大阪国際大学)
- 鈴木 悠 (東京音楽大学)
- 岩田剛 (愛媛大学国際連携支援部)

▶日時

- 〈オンライン〉 令和8年1月23日(金) 13:00~16:40
- 〈対面〉 令和8年1月30日(金) 14:00~17:00

▶場所

- オンライン開催 (Zoom)
- 対面開催 東京都立大学 南大沢キャンパス  
6号館「402教室」

▶参加者

92名 (オンライン75名、対面17名)

[学内3名・学外89名 東京都立大学(13)、東京成徳大学(4)、獨協大学(3)、明治大学(3)、亜細亜大学(2)、愛知工業大学(2)、安田女子大学(2)、京都芸術大学(2)、公立千歳科学技術大学(2)、桜美林大学(2)、周南公立大学(2)、神田外語大学(2)、成安造形大学(2)、清泉女子大学(2)、大阪国際大学(2)、比治山大学(2)、文教大学(2)、立正大学(2)、エリザベト音楽大学(1)、びわこ学院大学(1)、岡山大学(1)、関西学院大学(1)、岐阜大学(1)、京都先端科学大学(1)、慶應義塾大学(1)、広島経済大学(1)、広島女学院大学(1)、国際基督教大学(1)、三田国際科学学園中学校・高等学校(1)、秋田県立大学(1)、城西大学(1)、新潟大学(1)、新潟薬科大学(1)、神戸大学(1)、成城大学(1)、西南女学院大学(1)、創価大学(1)、筑波技術大学(1)、筑波大学(1)、長岡造形大学(1)、東京音楽大学(1)、東洋大学(1)、同志社大学(1)、南山大学(1)、日本赤十字豊田看護大学(1)、武蔵大学(1)、福島大学(1)、文京学院大学(1)、北海道教育大学(1)、名寄市立大学(1)、名古屋大学(1)、名桜大学(1)、藍野大学(1)、龍谷大学(1)、和歌山県立医科大学(1)、その他(1)]

▶目標

- それぞれの立場で自大学における教育の国際化に貢献することができる。
- 学生の海外派遣、留学生の受け入れやキャリア支援に関する基本的な業務について、リスクを理解し、担当者個人ではなくチームで対応することができる。
- 国際化を取り巻く様々な学内関係者との協働に有効な知識・理解を身につけ、職場で実践することができる。

▶内容

《オンライン》

- オリエンテーション
- 第1部【基礎知識&マネジメント】  
知の総和答申を国際化に悩む大学の立場で読み直す
- 第2部【基礎知識】  
国際化を推進するための業務を基礎から学ぶ  
①海外派遣業務編 ②留学生募集編  
③留学生受入業務編 ④留学生キャリア支援編
- 第3部【マネジメント】  
国際化を推進する組織づくりと人づくり

《オンライン》

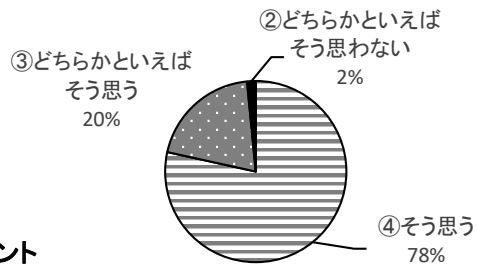
- 第4部【基礎知識&マネジメント】  
基礎から学ぶ 留学プログラム(派遣)企画ワークショップ  
※希望するセッションだけの受講も可。

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

65名(70%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

〈オンライン〉

- 組織の大枠の話から、個人の業務レベルの話まであったため、組織の中でどのように向かうべきかを考える機会となった。また、組織の問題を考えるヒントを得られた。
- 全体を通して分かりやすい研修でした。留学生受入業務で、入管の最近や今後の動向をまとめていただいていた資料が大変役に立ちました。

〈対面〉

- 規模感や違う学問分野を持つ他大学のみなさんとワークショップをすることで新鮮な意見や違った切り口での意見をきくことができ勉強になった。

〔この研修の改善点〕

(オンライン)

- 留学生の受け入れや派遣、キャリア支援や入試広報などは、分科会のように分けて、もっと詳しく学べるとさらに良いと思います。各パートをすべて網羅すると、それぞれの所要時間が短くなってしまいますので、もっと詳しく聞きたかった私にとっては残念でした。

(対面)

- 半分テーマに基づき、また半分フリートークに近い形で情報交換をする時間があれば良いと思います。

教員共済九折優待 (東京都立大学職員) 適用  
大学コンソーシアム五大学 実施

**大学教育国際化 基礎知識&マネジメントセミナー**

【第1部~3部】  
1月23日(金) オンライン開催 (定員50名)

【第4部】  
1月30日(金) 対面開催 (定員20名)  
(東京都立大学南大沢キャンパス)

セミナーの全体的構成  
第1部【基礎知識&マネジメント】  
「知の総和答申を国際化に悩む大学の立場で読み直す」  
第2部【基礎知識】  
「国際化を推進するための業務を基礎から学ぶ」  
第3部【マネジメント】  
「国際化を推進する組織づくりと人づくり」  
第4部【基礎知識&マネジメント】  
「基礎から学ぶ留学プログラム(派遣)企画ワークショップ」

【対象】 大学教育の国際化に熱心をもつ教職員  
※国際化推進部以外の、大学院生も対象です。  
※国別言語に制限されている方の参加はご遠慮しております。

【申込】 12月2日(火)~1月16日(金)  
お申込みは<https://webform.alpha.usgpf/>  
お申込みは20時迄

【参加費】 無料 (テキストは各自で用意)

お問い合わせ  
〒108-8501 東京都港区赤坂  
TEL 03-5927-9154 | [info@alpha.usgpf.jp](mailto:info@alpha.usgpf.jp)

【セミナーチラシ】

## アカデミック・アドバイザー養成講座

## 【実施概要】

## ▶講師

蝶慎一（香川大学）  
福博充（創価大学）  
清水栄子、上月翔太、真鍋亮（愛媛大学教育企画室）

## ▶日時

令和8年1月30日（金）～31日（土）

## ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージアム「アクティブ・ラーニングスペース2」

## ▶参加者

23名  
[学内5名・学外18名\_高知大学(2)、創価大学(2)、大阪大学(2)、獨協大学(2)、茨城大学(1)、学習院大学(1)、公立小松大学(1)、高知工科大学(1)、四国学院大学(1)、城西大学(1)、神奈川大学(1)、東京大学(1)、東京通信大学(1)、法政大学(1)]

## ▶目標

1. アカデミック・アドバイジングの意義と基本的な方法について説明できる
2. アカデミック・アドバイザーとしての学生対応における効果的な方法と留意点を説明できる
3. アカデミック・アドバイジングを通じた組織的な連携や教育改善の視点について説明できる
4. 自大学におけるアドバイジング体制と支援の課題を分析し、具体的なアクションプランを作成できる
5. 支援における多様な考え方や実践事例を尊重し、共に学び合う姿勢を示すことができる

## ▶内容

## 《1日目》

1. オリエンテーション
2. アカデミック・アドバイジングとその意義
3. アカデミック・アドバイジングとカリキュラム・マネジメント
4. 学生理解
5. アカデミック・アドバイジングの実践
6. アカデミック・アドバイジングにおける倫理
7. 個人ワーク

## 《2日目》

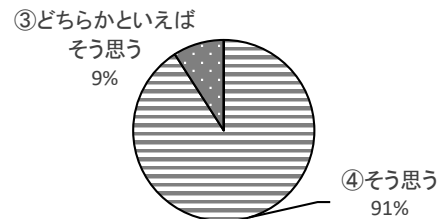
1. アカデミック・アドバイジングの組織モデル
2. アカデミック・アドバイジングを支える人材養成
3. 個人ワーク/コンサルテーション
4. グループワーク
5. 全体の振り返り

## 【アンケート結果】

## ▶回答者(回答率)

22名(96%)

## ▶満足度:全体的に満足できるものだった



## ▶コメント

## 〔この研修の良かった点〕

- アカデミック・アドバイジングについて、体系的に学ぶことができたことです。また、他大学の状況や具体例、方法などをご共有いただけたことが非常に貴重な機会となりました。
- アクションプランを作成しコンサルテーションを受けられたこと。課せられたワークごとにグループ内で意見交換できたこと。
- 事前課題があったことで、研修を受講する前に本学のアドバイジング体制や学習支援体制を理解するきっかけとなった。受講後については、自分の学生に対するアドバイジングの具体的なやり方を知るきっかけとなり、学んだことを活用したいと思います。

## 〔この研修の改善点〕

- 2日間で濃密な研修でしたので、人によっては理解・定着が難しいかと感じました。もう少し期間を長くする、あるいは小分けにして開講するなどできるとより良いかと思いました。
- 参加者の業務経験やアカデミック・アドバイジングに対する理解度に差があると感じたため、基礎編と発展編を分けるなどの工夫があると、より効果的だと思われる。



【集合写真】

## ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

### 【実施概要】

#### ▶講師

上月翔太（愛媛大学教育企画室）

#### ▶日時

令和8年2月10日（火）～3月23日（月）

#### ▶場所

オンライン開催（Zoom）

#### ▶参加者

3名

[学内3名]

#### ▶目標

1. ティーチング・ポートフォリオ（TP）とは何かを説明できる。
2. ティーチング・ポートフォリオの必要性・有効性について説明できる。
3. ティーチング・ポートフォリオ作成の要点と手順を説明できる。
4. ティーチング・ポートフォリオを作成できる。

#### ▶内容

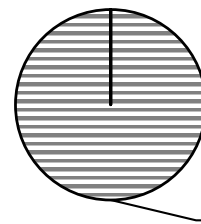
1. オリエンテーション
2. ティーチング・ポートフォリオとは何か
3. 準備のためのミニワーク
4. 個別メンタリング
5. TP作成
6. TP最終稿提出

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者（回答率）

2名（67%）

#### ▶満足度：全体的に満足できるものだった



④ そう思う  
100%

#### ▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 教育実績について意識できるようになり、勉強になった。
- 親身に寄り添っていただきありがとうございました。

ファカルティ・ディベロッパー養成講座

【実施概要】

▶講師

竹中喜一（近畿大学）  
吉田博（創価大学）  
中井俊樹、上月翔太、真鍋亮（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和8年2月20日（金）～21日（土）

▶場所

近畿大学 東大阪キャンパス  
3号館4階「401教室」

▶参加者

17名  
[学内0名・学外17名、四天王寺大学(3)、国士舘大学(2)、公立鳥取環境大学(2)、東京科学大学(2)、京都産業大学(2)、大正大学(1)、東北芸術工科大学(1)、宝塚大学(1)、京都華頂大学・華頂短期大学(1)、奈良学園大学(1)、京都大学(1)]

▶目標

1. FDの意義を説明できる
2. FDの基本的な手法について方法と留意点を説明できる
3. 組織的なFDの展開の方法を挙げることができる
4. FDを通じて所属大学の組織開発を推進する方法を説明できる
5. 所属大学におけるFDについての改善提案ができる
6. 多様な考えや経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることできる

▶内容

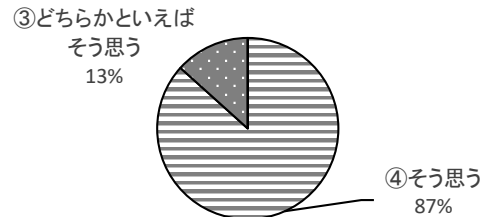
- 《1日目》
1. オリエンテーション
  2. FDとその意義を理解する
  3. FDの課題を共有する
  4. 研修を企画する
  5. 授業アンケートを実施する
  6. ティーチング・ポートフォリオを活用する
  7. 教員の個別学習を支援する
  8. FDを通じてカリキュラムを改善する
- 《2日目》
1. FDを評価・改善する
  2. FDの課題解決を検討する  
説明  
FDの課題解決策の作成  
FDの課題解決策の発表・質疑応答
  3. まとめとふりかえり

【アンケート結果】

▶回答者（回答率）

15名（88%）

▶満足度：全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 点と点であった業務が線でつながる視点を新たに持つことができた。対象となる業務に直結する目的にとどまらず、その先にある大局的な目標と意義を理解できた点は、対象について単なる事務作業に終わらせず、創造性をもって当たる指標となると思われる。
- 講義、ワーク、2日目にメンバーが入れ替わるなどの工夫があって、研修中に常に集中して取り組むことができました。最後に証書もいただけ嬉しかったです。大変勉強になりました。
- 他大学のFDに関する取り組みを知ることができた点、自大学のFDに係る課題について改善するためのワークがあり、その内容について個別に相談やアドバイスをいただけた点です。

〔この研修の改善点〕

- 日程が、国公立の入試直前なので、もう少し後か夏休みくらいが適切かと思います。
- 白テキストはオンラインで配布が良いと思います。一つ一つの内容（講義）が関係性がわかりにくいので、つながりが意識されるような構成、説明があるといいと思いました。



【集合写真】

## b. 研修講師派遣

本拠点では、全国の高等教育機関等からの多種多様な研修のニーズに対応できるメニューと体制を整え、講師派遣を行っている。今年度は42機関に対し、51件の講師派遣を行い（令和8年3月23日現在）、研修講師や研修内製化のためのアドバイスを行う等、それぞれの組織で必要とされる人材育成の取組に、本拠点のノウハウを提供した。講師派遣先には、事後に報告書やアンケート結果の提出を依頼し、その成果の確認や今後の改善に供している。

<令和6年度講師派遣件数>

令和8年3月23日現在

地区	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
派遣件数	0	1	15	4	17	5	7	2	51

※愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室スタッフ・愛媛大学認定研修講師担当分を計上。

<研修講師派遣先からの声（事後アンケート自由記述より一部抜粋）>

- ・遠方から来校いただき、興味深い授業を聞かせていただきました。授業の内容はもちろんですが、先生の授業の進め方も大きな学びを得たと感じます。また、かなり有名な先生でしたが、親しみやすいお人柄で受講生が気軽に質問などさせていただけました。貴重な聴講の機会をいただきましてありがとうございました。
- ・本学に限った話ではないのかもしれませんが、近年の学生からは授業評価についてシラバス等で明示しているにも関わらず、「正当な評価をされていない」と異議を申し立てる学生が徐々に増えていると感じております。そうした中での今回のご講演でありましたので様々な気付きや改善のヒントをいただけたと思います。
- ・IRと業務改善を結び付けて理解することは難しいのではないかと当初は懸念しておりましたが、実務に即して非常に分かりやすく整理してご説明いただき、理解を深めることができました。また、3時間という長時間にもかかわらず、終始テンポよく進行いただき、あっという間に時間が過ぎるほど充実した講座でした。

#### <組織開発支援を目的とした講師派遣>

「第4期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」に基づき、組織開発支援を目的とした講師派遣を行っている。この取組では、カリキュラム改善や研修体系の構築といった特定の課題解決に向けたコンサルティング等、依頼元の高等教育機関が持つ個別のニーズに沿った支援を提供している。以下に令和7年度の取組の例を示す。

#### ◆学生の学習サポートに関する支援

依頼元機関における学習支援およびアカデミック・アドバイジング活動に対し、外部アドバイザーとして、定例オンライン会議への出席を通じた助言や学習支援内容・方法に関する助言、教職員を対象とした研修の企画・実施を行った。

依頼元機関の自立学習支援プログラムにおいて、学生への学習支援活動や同支援に対する評価・効果検証方法について助言を行うため、アドバイザーとして講師を派遣した。

#### ◆FDに関する支援

依頼元機関の教育内容の改善及び向上を目的としたFD活動において、取組の活性化や後進の育成を図るため、アドバイザーとして定期的に講師を派遣した。新任教員を対象にした研修の実施を講師として務める他、FD活動に関する助言や指導、特定テーマに関する専門性をもつ他の講師の紹介を行うなど、依頼元組織のFD活動を活発にするための各種業務を行った。

#### ◆カリキュラム開発に関する支援

依頼元機関の新任教員と役職者を主な受講者として、「カリキュラム・コーディネーター養成講座」を実施した。拠点事業として行っているプログラムと同内容としながら、依頼元機関の教員によるカリキュラム解説も交えることで、自機関の理解の深化と高い実践性を備えたプログラムを実施した。

#### ◆同一機関への複数回の講師派遣

依頼元機関のニーズに合わせたFD・SD研修を実施するため、複数回の講師派遣を行った。依頼元機関が希望する研修内容に合わせて、各専門分野の講師を派遣する等、依頼元機関の要望に柔軟に対応しながら組織開発に繋がる支援を行った。

## 講師派遣先での研修プログラム(令和7年度)

※パネリスト等複数講師の研修は除く

令和8年3月23日現在

日程	派遣先機関名	研修テーマ	講師	参加者数	満足度
5月10日(土)～11日(日)	創価大学	カリキュラム・コーディネーター入門研修	中井俊樹、上月翔太	30	89
5月17日(土)	千葉大学アカデミック・リンク・センター	アカデミック・アドバイジング	清水栄子	17	100
6月5日(木)～6日(金)	愛知県立総合看護専門学校 愛知県看護研修センター	教育方法	中井俊樹	22	100
7月5日(土)	芝浦工業大学	アカデミック・アドバイジング入門	清水栄子	24	100
7月16日(水)	京都女子大学	カリキュラムの精選・体系化、授業科目数の適正化	上月翔太	172	85
7月24日(木)～25日(金)	追手門学院大学	カリキュラムコーディネーター養成研修(初級編)	中井俊樹	19	100
7月30日(水)	追手門学院大学	アクティブ・ラーニングを活用した授業マネジメント	真鍋亮	17	100
7月30日(水)	追手門学院大学	ルーブリック評価入門	真鍋亮	17	100
8月1日(金)	岩手県看護協会	学生の学習を促す指導と倫理	中井俊樹	15	100
8月4日(月)	松山看護専門学校	学生の学習を促す教育評価	中井俊樹	26	100
8月8日(金)	徳島県立総合看護学校	看護実習における体験学習と省察的実践につなげるための教育的手法	高橋平徳	24	100
8月13日(水)	東京都ナースプラザ	教育と学習の原理	中井俊樹	19	100
9月8日(月)	関西外国語大学	教育の質保証に向けたカリキュラムと授業の改善	中井俊樹	41	95
9月10日(水)	津田塾大学	大学教育における生成A I の活用	中井俊樹	132	95
9月11日(木)	茨城大学	教育の質保証に向けた教育改善	中井俊樹	38	90
9月26日(金)	(一社)日本能率協会	教育の内部質保証体制の構築	中井俊樹	50	80
9月30日(火)	高知県立大学	ハラスメント防止研修	上月翔太	108	94
10月3日(金)	広島都市学園大学	学生参加型授業	上月翔太	35	100
10月18日(土)	(一社)教育ネットワーク中国	教学I R と特色ある取り組み報告	真鍋亮	36	100
10月31日(金)	長岡造形大学	I R とその意義とは	真鍋亮	6	100
11月6日(木)	県立広島大学	教育改善につながるカリキュラムの評価	上月翔太	93	99
11月6日(木)	日本システム技術株式会社	学生の学びを促すアカデミック・アドバイジング	清水栄子	200	98
11月21日(金)	天理大学	学習者本位の教育とシラバス	中井俊樹	194	95
11月26日(水)	国立阿南工業高等専門学校	発達障害のある学生に配慮した授業づくり	三浦優生	49	98
12月1日(月)	成蹊大学	外国人留学生への理解と指導、支援と取り組みについて～安心して留学生活が送れるために～	上月翔太、岩田剛	42	100
12月19日(金)	長岡造形大学	F D 研修	真鍋亮	1	100
12月23日(火)	広島経済大学	I R を活用した業務改善	真鍋亮	37	92
12月25日(木)	四国大学	学習に困難感を抱く学生への教育力向上を目指したルーブリックの作成	上月翔太	19	100
1月8日(木)	名城大学	コンピテンシーを育成するアクティブラーニング	中井俊樹	113	94
1月27日(火)	神戸市看護大学	カリキュラム評価の基礎知識	中井俊樹	39	92
2月18日(水)	特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪	価値観を言語化し、チームのエンゲージメントを高める -カードを用いた価値観の再発見-	葛西崇文	9	100
2月24日(火)	神戸市看護大学	アクティブラーニングの基礎	中井俊樹	49	100
2月27日(金)	龍谷大学	新たな教養教育の可能性を考える -教養教育の未来を見据えて-	上月翔太	30	100
3月2日(月)	龍谷大学	生成A I の教育利用	中井俊樹	35	96
3月5日(木)	高知リハビリテーション専門職大学	アカデミック・アドバイジング	清水栄子	19	100
3月6日(金)	福岡県立大学	授業設計とアクティブ・ラーニング	中井俊樹	41	94
3月10日(火)	高知リハビリテーション専門職大学	リスクマネジメント実践	阿部光伸	21	90
3月11日(水)	埼玉県立大学	カリキュラム運営・検討会FD研修会	中井俊樹	52	100
3月18日(水)	島根大学	教学面における先進事例に係る研修会	清水栄子	53	96
				1944	94.9

## c. 情報発信

教育改革や改善を進めるためには、現状を把握し分析することが第一歩となる。本拠点では、学生の学びと成長に関わる各種データの収集・分析を行い、情報を公開している。

今年度は、教学IR担当者への支援の一環として、調査結果から想定される課題や学内外のIRに関する取組報告を掲載した、教育企画室ニュースレター「IR News Vol. 13」を発行した。こちらの刊行物は、学内のみならず研修等で全国の大学教職員へ広く配布している。また「卒業予報2025」を作成し、ホームページにて公開した。これは、大学に蓄積されている過去1万人以上のデータを活用して、天気予報のように各時点でのGPAに対応する卒業確率を示したものであり、学習支援に活用できるよう、学生や教職員へ提供している。

令和5年度に開設したYouTube「愛媛大学FD・SDチャンネル」

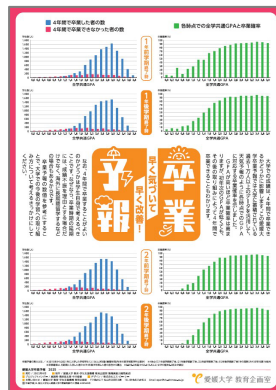
([https://www.youtube.com/@aidai\\_fdsd](https://www.youtube.com/@aidai_fdsd))では、本拠点に関連した各種FD・SDに関する動画を継続して公開している（今年度公開数：30本、合計：110本）。令和6年度からは「愛大学習チャンネル」([https://www.youtube.com/@aidai\\_learning](https://www.youtube.com/@aidai_learning))を新設し、大学生の「学び」を支援するコンテンツを投稿している。

さらに、より多くの方へ教職員能力開発（FD・SD）に関する情報を届けるために、令和6年度から「ぼっちゃんメーリングリスト」の運用を開始した。教育企画室のホームページ(<https://web.opar.ehime-u.ac.jp/>)から会員登録することができ、メーリングリスト会員はFD・SDに関するイベント情報等を投稿し、配信することもできる。令和8年3月23日現在、851名の会員登録があり、累計417件のメール配信を行った。

なお、刊行物及び各種イベント・セミナーの案内や教材等の提供をはじめとした教職員能力開発に関わる情報については、教育企画室のホームページでも随時発信している。



IR News Vol. 13



卒業予報2025



ぼっちゃんメーリングリスト



愛媛大学FD・SDチャンネル (Youtube)



愛大学習チャンネル (Youtube)

#### d. 論文・記事の掲載等について

教育企画室のスタッフは、専門分野から大学全体の取組まで、愛媛大学での事例や研究成果を論文や記事にまとめている。今年度は、以下の各種教育誌や新聞等に12本掲載された。また、著書に関しても、共著を含む2冊が新たに出版された。

##### 論文、記事一覧

表 題	掲載誌等名	出版社	出版年 /巻/号/頁	著 者
学内SD活動の継続と発展を支える要因—A大学の事例報告から—	大学行政管理学会誌	大学行政管理学会	2025年7月/ 第29号	葛西崇文・ 横山浩一
アドバイザー研修設計に関する一考察:— 専門職不在の中で職能を育てる試み —	『アカデミック・アドバイジング研究』	日本アカデミック・アドバイジング協会	2026年3月/ 第4号	清水栄子
「アカデミック・アドバイジングの学習成果と教育の質保証: 米国 R1 大学における学習成果の分析を通して	『アカデミック・アドバイジング研究』	日本アカデミック・アドバイジング協会	2026年3月/ 第4号	清水栄子
準正課に携わる学生の成長実感測定と周囲の関与の関係: 京都外国語大学の学生アドバイザーを事例として	『アカデミック・アドバイジング研究』	日本アカデミック・アドバイジング協会	2026年3月/ 第4号	清水栄子
全学的な高等教育開発の推進方法	『高等教育開発』	日本高等教育開発協会	2026年3月/ 5巻	中井俊樹
費用対効果から大学教育を見つめ直す	『教育学術新聞』	日本私立大学協会	2025年11月 12日/第3026号	真鍋亮
大学教育×生成AI② 生成AI活用の意義と課題	『教育学術新聞』	日本私立大学協会	2025年11月 19日/第3027号	中井俊樹
大学教育×生成AI③ 生成AIの基本的な活用方法	『教育学術新聞』	日本私立大学協会	2025年11月 26日/第3028号	中井俊樹
大学教育×生成AI⑦ 生成AIを画像、音声、動画に活用する	『教育学術新聞』	日本私立大学協会	2026年1月21日/ 第3033号	真鍋亮

大学教育×生成AI⑧ 学生に求められる生成AIリテラシー	『教育学術新聞』	私立大学協会	2026年1月28日/第3034号	上月翔太
データ活用で中退予防と学生支援を「卒業予報」と入試改革、大学の出口・入口戦略を議論	『教育学術新聞』	日本私立大学協会	2026年1月28日/第3034号	真鍋亮
大学教育×生成AI⑨ 課題における学生による生成AI活用	『教育学術新聞』	私立大学協会	2026年2月4日/第3035号	上月翔太

#### 著書一覧

表 題	出版社	出版年	著 者
『大学IR入門—データにもとづく意思決定のための完全ガイド』	ナカニシヤ出版	2025年8月10日	中井俊樹、上月翔太、真鍋亮ほか
『授業設計と教育評価』中国語訳	燕山大学出版社	2025年12月1日	中井俊樹

## IV. 各種組織との協働

### a. 他拠点等との協働による研修会の実施

近畿大学 I R・教育支援センターとの共催により、インスティテューショナル・リサーチャー養成講座（10月25日～26日）およびファカルティ・ディベロッパー養成講座（2月20日～21日）を開催した。また、大学教育国際化基礎知識&マネジメントセミナー（1月23日・30日）については、昨年度に引き続き、大学コンソーシアム八王子と共催した。これらの継続的な協働を通じて、研修内容のブラッシュアップを図り、質の高い研修を提供することができた。

さらに今年度は、茨城大学教学イノベーション機構との共催により、アカデミック・アドバイザー養成講座および教務事務担当者講習会（初級編）（9月12日～13日）を開催した。また、アカデミック・アドバイザー養成講座（9月12日～13日、1月30日～31日）は、日本アカデミック・アドバイザー協会とも共催した。これらの研修では、本学と共催機関が連携して講師および運営を担当し、受講者に対してより専門性の高い知識を提供した。

次年度以降も、他拠点等との連携を継続し、研修の実施に取り組む予定である。

### b. 他ネットワーク等への講師派遣・運営支援

教育ネットワーク中国主催「2025年度教育ネットワーク中国第5回研修会」（10月18日）、日本高等教育開発協会（JAED）主催「第2回学習支援担当者研修会」（2月7日～8日）、「第6回カリキュラムコーディネーター養成研修会—初級編—」（2月13日～14日）、大学コンソーシアム大阪主催「2025年度管理職者SD研修」（2月18日）など、他ネットワーク等に対して本拠点から講師派遣を行った。

本拠点代表の中井は、日本高等教育開発協会（JAED）の会長を務めるとともに、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）の企画・実施統括者としても活動している。これにより、FD・SDの両面で多数の講師派遣を行うだけでなく、運営支援にも深く携わっている。なお、大学教育イノベーション日本（HEIJ）においては、令和5年度より本学が事務局を担当している。

これらのネットワーク等との連携を活かし、大学教育の開発に積極的に取り組むとともに、支援対象を全国の高等教育機関へと広げている。

参加により期待できる変化

- 所属大学の学生の学習状況やニーズ、実施されている学習支援の特徴と課題を整理し、改善に向けた提案ができるようになります。
- 所属大学で実施されている学習支援を向上させるための改善案を作成し、実行に向けた見通しを持てるようになります。
- 学習支援の実践を担う他大学の担当者とのネットワークが広がり、継続的に情報交換できる基盤が形成されます

本研修会の到達目標

- (1) 学習支援の対象、目的、支援内容、および評価方法について基礎的な考え方を説明できる
- (2) 所属大学における学習支援の位置づけを説明できる
- (3) 所属大学の学習支援体制を創造/改善するためのプランを策定できる
- (4) 他大学の担当者や学習支援に関する考え方や実践事例を共有し、相互理解を深めることができる

参加申し込み

お申込み

<https://www.jaedweb.org/dev1>

問合せ  
メールアドレス

[info@jaedweb.org](mailto:info@jaedweb.org)

参加費

1人 20,000円

振込先

三井住友銀行 兵庫支店 普通 7758395  
 かんぽ生命のりかえ専用口座

参加費  
内訳

テキスト/ 当日資料印刷・製本費 / 昼食 / 当日研修費用  
 ※清水栄子・中井俊樹編 (2022) 『大学の学習支援 Q&A』(玉川大学出版部) を参加者に配付いたします。



日本高等教育開発協会 (JAED)

Web <https://www.jaedweb.org> お問い合わせ先 [info@jaedweb.org](mailto:info@jaedweb.org)

第 2 回

学習支援担当者研修会

受講証  
発行

～学習支援の作り方と動かし方を考える～

学生の学習に対するニーズや課題は多様化しており、その課題にそった支援の提供が求められています。本研修では貴学の学生の課題に沿った学習支援方法を模索し、その改善を考えます。学生の学習について課題を感じ、その解決に向けた支援を模索している全教職員を対象としています。

- 開催日程 2026年 2月 7日(土曜日) 10:00 から 17:00まで  
 2026年 2月 8日(日曜日) 9:30 から 16:45まで
- 定員 30名
- 場 所 大正大学巣鴨キャンパス  
 〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3丁目20-1
- 対象者 大学教職員
- 【主催】日本高等教育開発協会
- 【共催】愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)  
 株式会社学びと成長しくみデザイン研究所

事前課題があります。詳しくは内面をご参照下さい。研修会全日程を受講の方に受講証を発行します。

多様な学生を受け入れる大学では、学習者本位の教育の提供とその質保証が求められています。学生の学びを支えるためには、正課・正課外を通じたきめ細かな支援が必要であり、教員に加えて職員が協働して取り組む体制の重要性が高まっています。

本研修会では、学習支援の基本方針から体制構築、学生スタッフの育成、評価方法まで、学習支援を「つくり、動かす」ための視点を体系的に学びます。講義に加えて、自大学の現状共有や他大学との事例交換、ワールドカフェ形式での意見交換を通じて、参加者同士が実践知を持ち寄りながら改善策やアクションプランを具体的に作成します。

学生の課題に沿った支援方法の検討や、学習支援に関する課題解決、組織的な運営を進めたい皆さまのご参加をお待ちしております。

このような方が対象です

- 学習支援を担当している教職員(クラス担任、ゼミ担当教員を含む)
- 学務系職員
- 学習支援部門の組織的運営に携わる管理職

事前課題

1) ミニレクチャー教材の視聴  
 学生支援と学習支援の違い、さまざまな学習支援や学生間サポート体制など国内事情についての動画を事前に視聴しておいてください。

2) 自大学の現状と課題シート作成  
 支援概要・対象・評価方法・課題について、お知らせするシートに入力ください。  
 所属大学の (1) 教育目標やマスタープラン、(2) 学生の特徴 (3) (わかる範囲で) 提供されている学習支援の①名称、②目的、③対象(学部や学年、全学的化特定の授業の受講生かなど)、④支援の概要、⑤評価方法(支援の成果や正課をどのように測っているか)、⑥担当部署

講師



清水栄子  
 日本高等教育開発協会 正会員  
 愛媛大学 准教授



多田泰統  
 日本高等教育開発協会 正会員  
 京都橋大学 准教授



君島菜葉  
 日本高等教育開発協会 正会員  
 大正大学教務部長/特命准教授

プログラム

研修1日目 2月7日(土曜日) 10:00

オリエンテーション・講師・参加者自己紹介  
 2日間の研修の目的と進め方についてオリエンテーションを行い、その後、講師および参加者による自己紹介を行います。 10:30

学習支援の作り方①: 基本方針・体制構築 <講義+演習>  
 学習支援を学内でどのように位置づけ、どのような体制で進めていくかは、効果的な支援を行う上で重要となります。本セッションでは、全学的な教育目標やアクションプランとの接続、学習支援の位置づけについて事例を交えて解説します。その上で、参加者の皆さまにも自大学における学習支援の位置づけについて考えていただきます。 11:30

交流タイム  
 参加者の皆さまに、自大学の学習支援の状況やお悩みごと共有いただき、似た課題を持つ人とのつながりを創っていただきます。以降のプログラムで協働し、議論を重ねるグループを作ります。 13:00

ランチタイム <12:00-13:00> 13:00

学習支援の作り方②: 学生スタッフの育成 <講義+演習>  
 現在の学習支援のキーパーソンである学生スタッフに求められる資質や能力、そして学生スタッフの採用と研修、支援の場でのマネジメント方法について、事例を交えて解説します。すでに学生スタッフを採用している大学の皆さまには、その経験知を共有いただく予定です。 14:00

自大学における現状共有ワーク <グループワーク>  
 事前課題のワークシートを基に、自大学の課題をグループ内で共有し、改善策について協議し 15:45

改善方針案づくりワーク <グループワーク>  
 事前課題で作成いただいたワークシートを基に、自大学の課題や現状をグループ内で共有し、改善に向けた案について協議します。他大学の視点も取り入れながら、自大学の強み・課題を整理することを目的としています。 16:45

<全体> 16:45

1日目まとめ・質疑応答

研修2日目 2月8日(日曜日) 9:30

前日のふりかえり  
 前日の内容を振り返ります。また2日目のスケジュールを確認します。 9:45

学習支援の動かし方①: 事例検討 <講義+演習>  
 授業との連携、障がいのある学生や留学生への支援、ICTの活用(動画教材など)、学習環境の整備など、学習支援の運営に関わる具体的な事例を紹介します。これらの事例を基に、参加者とともに、よりよい支援に向けた解決策や改善の方向性について検討します。 11:15

学習支援の動かし方②: 成果の可視化・評価 <講義+演習>  
 学習支援の成果を適切に可視化し評価することは、支援の質を高め、組織的な改善につなげる上で重要です。本セッションでは、定性的・定量的な評価の方法や報告のポイントについて、具体的な事例を用いながら参加者同士で議論・検討します。 13:15

ランチタイム <12:15-13:15> 13:15

所属大学への適用と共有 <全体ワーク>  
 ワールドカフェ形式の意見交換を行い、そこで得られた異なる視点や知見をから、所属大学が抱える学習支援の課題や改善への道筋を探索します。 14:50

アクションプラン作成 <個人ワーク>  
 参加者各自で、自身の大学における学習支援の対象や支援方針、評価方法、設置・改善の実施手順等をまとめます 16:00

共有とフィードバック <全体ワーク>  
 作成したアクションプランを参加者全体で共有し、相互にフィードバックを行います。他大学の視点や講師からのコメントを通じて、自大学での実行可能性や改善点を確認し、研修後の取り組みにつながる具体的な示唆を得ます。アクションプランを共有し、参加者間で相互フィードバックを行います。 16:30

研修全体のふりかえり  
 2日間の学びを総括し、今後の実践への活用や次の一歩を確認したうえで、研修を締めくくります。 16:30

## 事前課題

### 事前課題①

1. テキスト『カリキュラムの編成』の第1章から第3章までを読んでください。
2. テキストの内容を踏まえながら、ワークシートを使って、所属組織のカリキュラムをそれぞれの構成要素別に適切に設計されているかどうかを5点満点で評価してください。4点以下の場合は具体的な改善点を記してください。
3. ワークシートにもとづいて、「所属組織のカリキュラムの特徴と課題」について当日グループ内で3～5分程度で報告できるようにしておいてください。
4. テキストの指定の章以外も、講座の中で扱うテーマもあるため、事前に目を通しておくことを推奨します。

### 事前課題②

1. テキスト『学習成果の評価』の第4章を踏まえながら、所属組織でカリキュラムを通じた学習成果をどのように評価しているのか（適宜、第5章～第10章の内容も参照）を当日グループ内で説明できるようにご準備ください。
2. 当日、所属組織のアセスメントプラン（ポリシー）に関する特徴と課題をお尋ねします。所属組織でアセスメントプランを策定されている場合は、手持ち資料としてご準備ください（配付は必要ありません）。

## 参加申し込み

次のURLよりお申し込みください。

お申込み	<a href="https://www.jaedweb.org/cc1">https://www.jaedweb.org/cc1</a>
問合せメールアドレス	<a href="mailto:info@jaedweb.org">info@jaedweb.org</a>
参加費	1人 30,000円
振込先	三井住友銀行 兵庫支店 普通 7758395 ｶ)ㄐㄐㄒㄏㄈㄛㄎㄆㄎㄆㄎㄆㄎㄆㄎㄆ



### <含まれるもの>

中井俊樹著『カリキュラムの編成』・竹中喜一著『学習成果の評価』(玉川大学出版部) / オリジナルテキスト / 2月13日・14日の研修費用 / 昼食 / 2月13日の情報交換会参加費用



## 日本高等教育開発協会 (JAED)

Web: <https://www.jaedweb.org> お問い合わせ先: [info@jaedweb.org](mailto:info@jaedweb.org)

- いま既にあるカリキュラムから出発する -

# カリキュラムコーディネーター養成研修会<初級編>



～組織がチームとして教育に取組むための仕組み作り～

組織がチームとして学生をどう育てるか議論し、その成果を評価し、教育改善に取り組む。本研修会は、貴校において持続的な教育改善の仕組みを確立していく人材養成を目指します。

- 開催日程 2026年2月13日金曜日10:00から 14日土曜日16:30まで
- 対象者 カリキュラムまたは学習成果の評価・改善にかかわる教職員
- 場所 芝浦工業大学豊洲キャンパス **定員 40名** (抽選40名) 【事前課題があります。詳しくは最終ページをご参照下さい。】
- 主催 日本高等教育開発協会
- 共催 教職員能力開発拠点 (愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室) 理工学教育共同利用拠点 (芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター) 学びと成長しくみデザイン研究所

学習成果の可視化やアセスメントプランの策定が求められる中、ディプロマポリシーに掲げた人材像へ向けて、学生をより確実に育てていくためのカリキュラムマネジメントの重要性が強く認識されるようになってきました。

同時に、学内でカリキュラムマネジメントを担う人材の育成が大きな課題となっているという声も聴くようになりました。

本研修会では、「カリキュラムコーディネーター」に求められる基本的な力を、理論と実践事例の両面から学んだうえで、所属組織に戻ってから実施する具体的なアクションプランの整理まで、参加者同士のワークを通して深めてまいります。

所属組織の教育力を高めるため、学部・学科等がチームとしてカリキュラム運営する体制を本気で確立したいとお考えの方はぜひご参加ください。貴校の議論がスタートするきっかけとなるよう、しっかり準備をしてお待ち申し上げます。

### このような方が対象です

- カリキュラムコーディネーターという役割に、所属組織の教育力を高めるための可能性を感じ、自身がカリキュラムコーディネーターになりたいと考えている方。
- 学部・学科等で教育についてもっとしっかりと議論し、学生にとって学びやすく、学習意欲を引き出せる仕組みを作っていきたいと思っはいるものの、既存のカリキュラムがある中で、どのように議論を組み立てていけばよいか分からない方。
- カリキュラムの成果を点検評価し、改善に繋げたいが、何をどこまで入ればよいか、具体的にイメージできない方。

### 参加により期待される変化

- 大学のカリキュラム編成の原理を理論的に説明できるようになり、所属組織のカリキュラムの特徴と課題を抽出した上で、解決方法を提案できるようになります。
- 既存のカリキュラムをスタート地点に、学部・学科等がチームとして教育に取り組む体制を確立していく流れをイメージできるようになります。
- カリキュラムの成果をどのように点検評価し、どのように改善に繋げていけばよいか、具体的なイメージを持てるようになります。

## 到達目標

1. 所属組織において、なぜカリキュラムの改善が必要なのかを説得力をもって説明できる。
2. 大学のカリキュラムの特徴と編成と評価の原理を説明することができる。
3. 所属組織のカリキュラムの特徴と課題を抽出することができる。
4. カリキュラムに関するさまざまな課題解決の方法を提案することができる。
5. 大学のカリキュラムに関する多様な考え方や実践事例を尊重し、共に学びあう雰囲気貢献する。

 <b>竹中喜一</b> 日本高等教育開発協会 理事 近畿大学 准教授	 <b>中井俊樹</b> 日本高等教育開発協会 会長 愛媛大学 教授	 <b>西野毅朗</b> 日本高等教育開発協会 副会長 京都橋大学 准教授	 <b>榎原暢久</b> 日本高等教育開発協会 正会員 芝浦工業大学 教授	 <b>桑木康宏</b> 日本高等教育開発協会 正会員 学びと成長しくみデザイン研究所代表	 <b>山咲博昭</b> 日本高等教育開発協会 正会員 奈良女子大学 准教授	 <b>君島菜葉</b> 日本高等教育開発協会 正会員 大正大学 教務部長	 <b>真鍋亮</b> 日本高等教育開発協会 正会員 愛媛大学 特任助教
--	---	--	--	--	---	--	---

### プログラム

研修1日目 ◆ 2月13日金曜日 開場 9:50

オリエンテーション <10:00 - 10:20>	10:20 - 11:10
教学マネジメントの背景と意義 大学における教学マネジメントとはどのようなものなのか、そしてそれはなぜ求められるのかの背景を理解することで、カリキュラムの編成と評価の意義を明確にします。	山咲博昭
所属組織のカリキュラムの特徴と課題 カリキュラムの評価とそれに基づく改善を行うための現状を振り返ることを通じて、所属組織における評価の特徴と課題について考え、他の参加者と共有します。	竹中喜一
ランチタイム <12:10 - 13:10>	13:10 - 14:10
3つのポリシーの見直しと修正 教学マネジメントがうまくいかない理由の一つは現状の3つのポリシーに問題があること。改めてどのような視点で3つのポリシーを見直し、どのような方法で修正していくのかについて理解します。	竹中喜一
カリキュラムの編成と実施 カリキュラム編成のための準備と基本的な視点、カリキュラム実施上の工夫について紹介し、目の課題改善のためのヒントを得て頂きます。	榎原暢久
カリキュラムの評価と改善 カリキュラムを評価する方法に関する方針は、アセスメントプランとして定めます。ここではアセスメントプランの構成要素、直接評価および間接評価によるカリキュラム評価の方法を理解した上で、所属組織のカリキュラム評価の結果の活用にあたっての現状と課題を考察します。	真鍋亮

カリキュラムコーディネート実践事例① 16:30 - 17:00 西野毅朗

カリキュラムといっても、専門教育課程や共通教育課程、初年次教育・実習教育・卒業研究教育プログラムなど、切り口は様々にあります。カリキュラムコーディネートの多様な実践事例を紹介します。

カリキュラムコーディネート実践事例② 17:00 - 17:30 君島菜葉

カリキュラムといっても、専門教育課程や共通教育課程、初年次教育・実習教育・卒業研究教育プログラムなど、切り口は様々にあります。カリキュラムコーディネートの多様な実践事例を紹介します。

1日目内容に対する質疑応答 <17:30 - 17:40>

研修2日目 ◆ 2月14日土曜日 開場 8:50

教学マネジメントの組織体制 教育目的の達成には、教育の論理だけでなく運営の論理が重要になります。教学マネジメントの考え方とその具体的な組織体制のあり方を理解します。	山咲博昭
カリキュラムコーディネート実践事例③ 学習成果測定の結果をカリキュラムの継続的向上活動に繋げるには、無理のない作業量で、納得感のある情報が集まるよう工夫する必要があります。本セッションでは、実践を通して見えてきた、納得感のある学習成果データが集まりやすいアセスメント設計のノウハウを紹介します。	桑木康宏
カリキュラムの課題解決案の作成と共有 作成した課題解決案を他の参加者と共有しフィードバックを得たり、質疑応答を行ったりすることで、課題解決の実現可能性を高めていくことを目指します。	全講師
振り返り・アンケート記入・記念撮影 <16:00 - 16:30>	

# 価値観を言語化し、チームのエンゲージメントを高める

## カードを用いた価値観の再発見

2026(令和8)年

2月18日(水) 14:00~17:00

会場: キャンパスポート大阪

(大阪市北区梅田1-2-2-400 大阪駅前第2ビル4階)

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/access>

大学組織の成果は、管理職者が「人・チーム・価値観」にどう関わるかで大きく変わります。

本研修では、エンゲージメントの基礎理解から、チームが機能する条件、組織の理念(MVV)と自身の価値観が、日々の意思決定やマネジメントにどのように影響するかを学びます。

加えて、エドガー・シャインの組織文化モデルやグーグルの心理的安全性研究などの知見を踏まえ、管理職として価値観を可視化し、部下が安心して意見を出し合える環境をつくる方法を探求します。

後半では、エンゲージメントカードを使ってゲーム感覚で自身の価値観を言語化し、チームの対話促進やエンゲージメント向上につながる具体的なアクションへと落とし込みます。

明日からのマネジメントに役立つ実践的な内容です。

この機会に、ご自身の価値観を見つめなおし、言語化してみませんか?

### 募集要項

**対象** 管理職(課長補佐相当以上)の  
大学職員(所属部署不問)

**定員** 24名(最少実施人数12名)

**プログラム** 裏面をご参照ください

**受講料** 会員大学関係者 無料

非会員大学関係者 2,500円(要事前納入)※

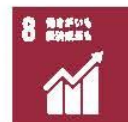
**申込方法** 下記フォームまたは右のQRコードから  
申込フォームにアクセスの上、  
お申込みください。  
<https://forms.gle/n1FXc4DWFp6jS1aZ7>



申込締切: 2月10日(火) 午後5時まで

※受講料納入について  
・対象の方には受講料の振込について別途ご案内を差し上げます。  
・研修の3日前以降の受講キャンセルに伴う返金はお受けできません。

主催: 特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪





# プログラム

(予定)



時間	内容
13:30～	開場・受付
14:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会あいさつ</li> <li>・管理職者SD研修               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エンゲージメントの基本と、管理職が果たす役割を理解する</li> <li>▶ 組織の理念・ビジョンと日々の判断のつながりを学ぶ</li> <li>▶ 自身の価値観が意思決定とリーダーシップに及ぼす影響を捉える</li> <li>▶ 組織文化モデルや心理的安全性の理論から関係づくりの要点を掴む</li> <li>▶ カードを使って価値観を可視化し、他者との違いを安全に共有する</li> <li>▶ チームの信頼を高める「価値観開示」の方法を身につける</li> <li>▶ 明日から使えるマネジメント行動を具体的に設計する</li> <li>▶ 質疑応答とディスカッションを行う</li> </ul> </li> <li>・閉会あいさつ</li> <li>・事務連絡</li> </ul>

## 到達目標

- ① エンゲージメントの重要性を自身の部署の文脈で説明できる
- ② 自身の価値観を言語化し、マネジメント行動との関係性を説明できる
- ③ 自身の価値観を基にしたリーダーシップ行動を、職場で実践する具体策として提示できる

講師 **葛西 崇文 氏** 愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 特任助教

<https://sites.google.com/view/t-kasai/>

1979年青森県生まれ。博士（学術）。青森中央学院大学等での勤務を経て、2021年より大阪女学院大学にて教務・学生課長、管理課長を歴任。2025年1月より現職。専門は知覚心理学および大学職員の能力開発（SD）。長年の実務経験と理論を融合させたSD研修の企画・講師を多数務めるほか、「愛媛大学FD・SDチャンネル」等での発信も行う。大学行政管理学会理事。



## 事前課題

ご自身が所属されている大学の建学の精神など、大学の理念を改めてご一読ください。同様に、建学の精神に基づく行動規範や職員像などが策定されている場合には、それらについても改めてお目通しください。

## 当日の持参物

- 建学の精神など、大学の理念がわかる資料を**4部印刷してご持参ください**。同様に、建学の精神に基づく行動規範や職員像などが策定されている場合には、それらについても4部印刷してご持参ください。当日のグループワークで使用します。
- 個人ワーク、グループワークにおいてノートパソコンを使用しますので、ご持参ください。

## 問い合わせ先

特定非営利活動法人 **大学コンソーシアム大阪**（事務局 研修担当）

- ▶ 電話:06-6344-9560（平日 9:30～17:30）
- ▶ メール:kenshu★conso-osaka.jp ※★を@に変えてください

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室規程

〔 令和6年4月1日  
規則 第46号 〕

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規（平成18年5月10日制定）の全部を改正する。

（趣旨）

第1条 この規程は、愛媛大学教育・学生支援機構規則第10条第2項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（以下「教育企画室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 教育企画室は、愛媛大学教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）の指示のもと、愛媛大学（以下「本学」という。）の教育に関する諸課題について調査、研究等を行うとともに、その成果をもとに教育施策を企画し、本学の教育改革を推進することを目的とする。

（業務）

第3条 教育企画室は、機構長の指示に基づき、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学的な教育企画、教育改革等に関すること。
- (2) 全学的な教育課題に係る調査、研究等に関すること。
- (3) 教職員の能力開発の実施に関すること。
- (4) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事業に関すること。
- (5) 教職員能力開発拠点事業に関すること。
- (6) その他教育開発に係る調査、研究等に関すること。

（組織）

第4条 教育企画室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 副室長
- (3) 室員

2 室長は、機構長が指名する副機構長をもって充てる。

3 副室長は、室員のうちから、機構長が指名する。

4 室員は、教育・学生支援機構及び教育学生支援部に所属する職員のうちから、機構長が指名する。

5 副室長及び室員の任期は1年とし、再任を妨げない。

（職務）

第5条 室長は、教育企画室の業務を掌理する。

2 副室長は、室長の職務を補佐する。

3 室員は、教育企画室の業務を処理する。

（共同利用運営委員会）

第6条 教育企画室に、第9条に規定する共同利用の実施に関する重要な事項を審議するため、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会（以下「共同利用運営委員会」という。）を置く。

2 共同利用運営委員会に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

（プロジェクトフェロー）

第7条 教育企画室に、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室プロジェクトフェロー（以下「プロジェクトフェロー」という。）を置くことができる。

2 プロジェクトフェローは、教育企画室が行う教職員能力開発に係る研修の企画、実施等に参画する。

3 プロジェクトフェローの受入れに関し必要な事項は、機構長が別に定める。

(認定研修講師)

第8条 教育企画室に、愛媛大学認定研修講師（以下「認定研修講師」という。）を置くことができる。

2 認定研修講師は、室長の依頼に基づき、教育企画室主催又は四国地区大学教職員能力開発ネットワーク主催の教職員能力開発研修の講師を行う。

3 認定研修講師は、本学の職員（教育企画室の室長、副室長及び室員を除く。）のうちから、室長が推薦し、機構長が当該職員の所属する部局等の長の同意を得て、委嘱する。

(共同利用)

第9条 教育企画室は、教職員の能力開発のため、本学の教育研究に支障のない範囲で、本学のプログラム、設備、資料等を、他の高等教育機関等の利用に供することができる。

(事務)

第10条 教育企画室に関する事務は、教育学生支援部において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、教育企画室に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

#### 附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

平成22年3月23日  
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室規程（以下「教育企画室規程」という。）

第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、教育企画室規程第9条に規定する共同利用の実施に関する重要な事項を審議する。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育企画室長
- (2) 教育・学生支援機構の専任教員 1人
- (3) 教育学生支援部長
- (4) 学外の学識経験者 若干人

2 前項第2号の委員は、教育企画室長が推薦し、愛媛大学教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）が指名する。

3 第1項第4号の委員は、機構長が推薦し、学長が委嘱する。

4 第1項第2号及び第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

5 第1項第1号から第3号までの委員の合計数は、運営委員会の委員の総数の2分の1以下とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、機構長が指名する。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 運営委員会に関する事務は、教育学生支援部において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

1 この内規は、平成22年3月23日から施行する。

2 この内規施行後、最初に任命される第3条第1項第3号及び第6号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成23年5月9日から施行する。

附 則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和4年4月19日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、令和6年4月1日から施行する。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議内規

平成22年4月21日  
制 定

(設置)

第1条 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室規程第11条の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室に愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議（以下「共同利用推進会議」という。）を置く。

(目的)

第2条 共同利用推進会議は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会が定める基本方針に基づき、共同利用の事業等を実施するために必要な事項を審議する。

(組織)

第3条 共同利用推進会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育企画室長
- (2) 教育企画室副室長
- (3) 教育・学生支援機構の専任教員 1人
- (4) 教育学生支援部長
- (5) 教育企画課長
- (6) 人事課長

2 前項第3号の委員は、教育企画室長が推薦し、愛媛大学教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）が指名する。

(議長)

第4条 共同利用推進会議に議長を置き、機構長が指名する。

- 2 議長は、共同利用推進会議を招集し、主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 共同利用推進会議は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 共同利用推進会議に関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、共同利用推進会議の運営に関し必要な事項は、共同利用推進会議が別に定める。

附 則

この内規は、平成22年4月21日から施行する。

附 則

この内規は、平成23年5月9日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年5月15日から施行する。

附 則

この内規は、令和4年4月19日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、令和6年4月1日から施行する。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室プロジェクトフェローの受入要項

〔 令和 6 年 4 月 1 日  
制 定 〕

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室規程（以下「規程」という。）第7条第3項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室プロジェクトフェロー（以下「プロジェクトフェロー」という。）の受入れに関し、必要な事項を定めるものとする。

(資格、業務等)

第2条 プロジェクトフェローは、愛媛大学の教職員以外の者であって、教職員能力開発に係る知識、経験等を有するものとする。

2 プロジェクトフェローは、教育・学生支援機構教育企画室（以下「教育企画室」という。）における教職員能力開発に係る研修の企画、実施、調査研究、教材開発等に参画する。

(推薦)

第3条 教育企画室長は、愛媛大学の教職員以外の者のうちから、教職員能力開発に係る知識、経験等を有するものをプロジェクトフェロー候補者として、教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）に推薦する。

(委嘱)

第4条 機構長は、前条の推薦があったときは、当該者の所属する機関の長の承認を得て、国立大学法人愛媛大学アカデミックアドバイザーに関する規程第2条第3号の規定に基づくプロジェクトフェローとして委嘱するため、国立大学法人愛媛大学アカデミックアドバイザーの受入細則第2条第2項に基づき、学長へ委嘱を依頼する。

(受入期間)

第5条 プロジェクトフェローの受入期間は原則として1年（年度途中で受け入れた場合は、受け入れた日の属する年度末までの期間）とし、更新することができる。

(プロジェクトフェローの取消し)

第6条 機構長は、プロジェクトフェローから辞退の申出があった場合、プロジェクトフェローが本学の業務に支障を来すおそれがあると認めた場合その他必要と認めた場合は、学長へプロジェクトフェローの委嘱の取り消しを申し出ることができる。

(謝金)

第7条 プロジェクトフェローに、国立大学法人愛媛大学諸謝金取扱要項に基づき、謝金を支払うことができる。

(経費の一部負担)

第8条 教育・学生支援機構は、予算の範囲内で、プロジェクトフェローの業務等に係る経費の全部又は一部を負担することができる。

(事務)

第9条 プロジェクトフェローの受入れに関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

(雑則)

第10条 この要項に定めるもののほか、プロジェクトフェローの受入れに関し必要な事項は、機構長が別に定める。

附 則

この要項は、令和6年4月1日から施行する。

## 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

### 共同利用運営委員会委員名簿

氏名	所属・職名	備考
中井 俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室長、教授	第1号委員
清水 栄子	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 准教授	第2号委員
桐野 律子	愛媛大学教育学生支援部長	第3号委員
竹中 喜一	近畿大学 I R ・教育支援センター 准教授	第4号委員
山本 堅一	北海道大学大学院教育推進機構 准教授	第4号委員
竹山 優子	筑紫女学園大学教学支援部教務班 班長	第4号委員
小林 功英	日本私立大学協会広報部広報課長	第4号委員

### 共同利用推進会議委員名簿

氏名	所属・職名	備考
中井 俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室長、教授	第1号委員
林 知寿	教育企画室副室長、愛媛大学教育学生支援部入試課副課長	第2号委員
清水 栄子	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 准教授	第3号委員
桐野 律子	愛媛大学教育学生支援部長	第4号委員
石川 尚	愛媛大学教育学生支援部教育企画課長	第5号委員
堀金 守	愛媛大学総務部人事課長	第6号委員



令和8年3月 発行

---

発行 教職員能力開発拠点  
(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)  
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番  
TEL.089-927-8922  
E-mail opar@stu.ehime-u.ac.jp  
<http://web.opar.ehime-u.ac.jp/>